

Passo a Passo.

令和4年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教職課程
司書課程
司書教諭課程
学校司書課程
学芸員課程

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

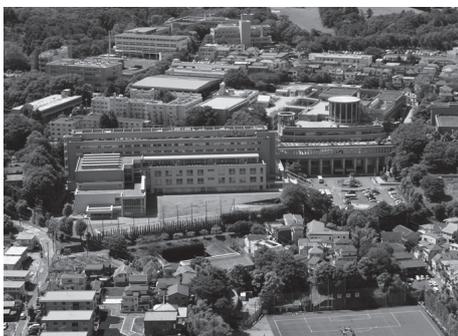
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した4人の若者により、1880年(明治13年)に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。

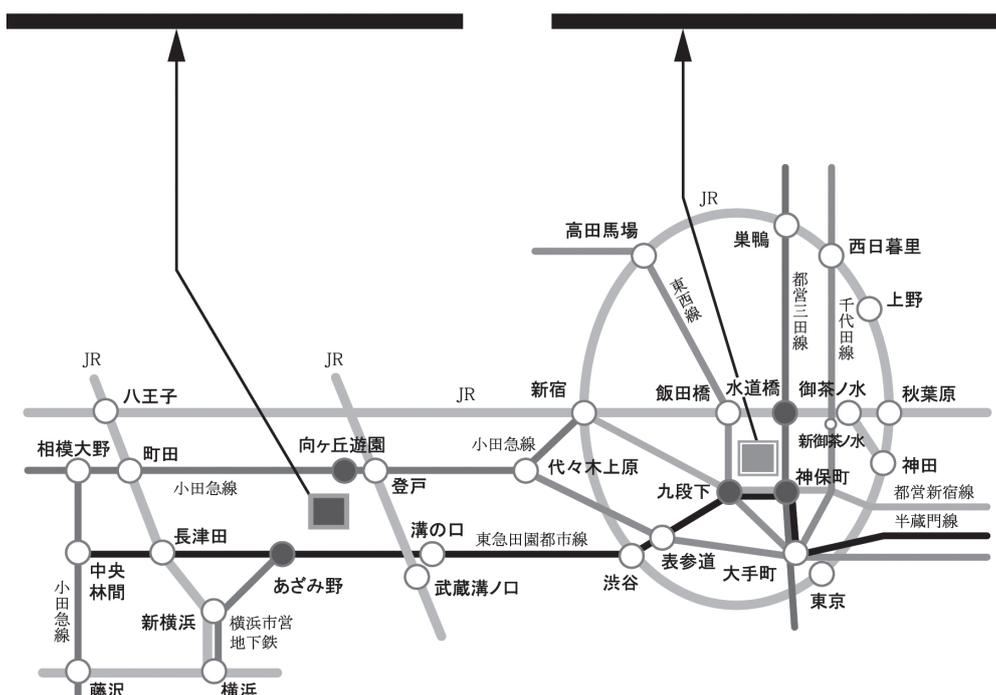


生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分

神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



資格課程の「これまで」と「これから」をつなぐ『パッソ ア パッソ』

教職課程協議会委員長 法学部 教授 森田 司郎

本学の資格課程年報『パッソ ア パッソ』Vol.25の公刊に際して、まずはこの年報というパトンが四半世紀にわたって絶えず引き継がれてきたことの重みを感じるとともに、これまで資格課程を支えてきてくださった多くの方々に対して心からの感謝を申し上げます。

1949（昭和24）年に開設された本学の教職課程は、今年で73年の年月を積み重ねてきたことになる。続いて1954（昭和29）年に司書教諭課程、1958（昭和33）年に司書課程、1985（昭和60）年に学芸員課程が、そして2018（平成30）年に学校司書課程が設置されて現在に至っている。今、皆さんが手に取っているこの資格課程年報には、これらの課程に関わる多くの教員、卒業生や在学生からの熱意に溢れたメッセージが掲載されているとともに、データ編として毎年度の資格課程の活動記録が収められている。この年報が公刊されるようになる以前には、このような形で本学資格課程の活動を整理してまとめた記録はなかった。このため、過去の活動内容や成果をつぶさに知ることは困難であった。この年報のおかげで、少なくともここ25年間の資格課程の姿については事実上誰でも（年報はホームページ上に公開されているため）詳細に知ることができる。したがって、この年報がもつ史料としての意義は計り知れないし、今後も刊行年数を積み重ねていけばさらにその価値が増すことになるだろう。

我々を取り巻く社会状況に目を向けると、現代では、DX（デジタルトランスフォーメーション）などによって社会構造が大きく変わろうとしている。こうした社会の大きな変化は、学校教育をはじめとする教育を大規模に変革することを要請している。令和4年12月の中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についてでは、「時代が今後どのようなものになっていくのかは予測困難であるが、様々な分野で発生する予測のできない非

連続的な変化が予想される。教師や学校は、こうした社会の変化に背を向けるのではなく、前向きに受け止めていくことが必要である」と、「Society 5.0とポストコロナ時代の新たな学び」について述べられている。これからの時代は「予測困難」であるが、この不確かさを前向きに捉えて、主体性、多様性を重視した協働的な課題解決を中心に置く教育を押し進めていくことが強く求められている。現場レベルでは、各学校においてICTを積極的に活用して「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」を実現することが目指されている。

こうした話を聞くと、「どのような発想や視点に立てば「予測困難」な時代の不確かさを前向きに捉えることができるのか」だったり、「どのような工夫をすれば「個別最適な学びと協働的な学び」を実現することができるのか」といった疑問を思い浮かべる方も多いただろう。我々は、こうした疑問に対する自分なりの答えを探すことで、より良い教育を実現するための一歩を踏み出そうとしている。そんな時にこの年報はヒントを与えてくれるかも知れない。たとえば、過去の年報に掲載されている論考の中に、今後の学校教育改革におけるICT活用の意義と役割に関する考察や、主体的で協働的な学びを実現させるための工夫や課題を綴った実践報告などを見つけることができる。このように、これまでの年報に詰まっているのは、より良い教育を目指す我々の背中を押してくれる、本学資格課程で学びを共にした方々からのメッセージである。

本年報のタイトル『パッソ ア パッソ』の由来はイタリア語の「一歩、一歩」である。その名にふさわしく、本学資格課程に関わる先達たちのこれまでの足跡を刻み、それを後進がこれから踏み出して一歩、一歩に繋げ続けて欲しい。こうした役目を果たしながら、この『パッソ ア パッソ』が今後もさらに10年、20年、その先へと歩み続けていくことを願っている。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

教員養成への期待

文学部 特任教授 肝付 俊朗	8
----------------	---

教職課程

卒業生から	12
教員採用試験体験記	16
教育実習を終えて	22
介護等の体験を終えて	27
教職公開講座に出席して	28
専修大学教育学会に出席して	29
教職総仕上げ「教職実践演習」	30
教科研修生体験レポート	31
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート	32
専修大学附属高等学校から 私立専修大学附属高等学校 教諭 上村 黎	33

司書・司書教諭・学校司書課程

「黒石図書館づくり市民の会の歩み」に寄せて 経営学部 教授 荻原 幸子	36
図書館をめぐる最新トピックス 文学部 教授 野口 武悟	37
図書館実習を終えて	38
卒業生から	39

学芸員課程

学芸員としての待遇とキャリア選択 (公財)たましん地域文化財団 歴史資料室 学芸員 山田 兼一郎	42
博物館実習を終えて	44
学芸員課程セミナーに参加して	46

データ編 (令和4年度)

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数	48
教育職員免許状取得件数	50
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数	50
教育実習先一覧	51
図書館実習先一覧	54
博物館実習先一覧	54
主な就職先一覧(教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員)	55
資格課程年間行事表	60
教職相談実施結果	61
教員採用試験対策特別講義実施結果	62
教員採用候補者選考試験(教員採用試験)説明会開催結果	63
教職公開講座開催結果	63
司書課程図書館実習報告会・司書課程就職(進路)懇談会・ 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果	64
学芸員課程「博物館実習(学内)」の展示実習報告	65
第2回学芸員課程セミナー開催結果	65
資格課程活動報告	65
資格課程教員紹介	66
編集後記	

■5つの資格課程

教職課程…中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>(令和4年度入学者)

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

司書課程…「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程…「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程…「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小学校・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

図書館で働きたいなら



司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書課程
学校司書課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

卒業時(希望者)
司書資格取得証明
書・学校司書課程
修了証明書の申請
および交付

卒業後(事前に申請した者)
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

卒業後(希望者)
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

令和4年12月に第2回
学芸員課程セミナー「博物
館、学芸員のリアル」を開
催しました。

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育課程の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※経営学部ビジネスデザイン学科、商学部会計学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は除きます。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア（注：令和4年度まで実施）

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めるとしてもどのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では本気で教員をめざす者を対象に、教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生及び卒業生です。授業期間中は土曜日に実施しています。受験指導専門学校と提携していますが、経済的に大きな負担とならない受講料の設定となっています。1年間を通じて計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

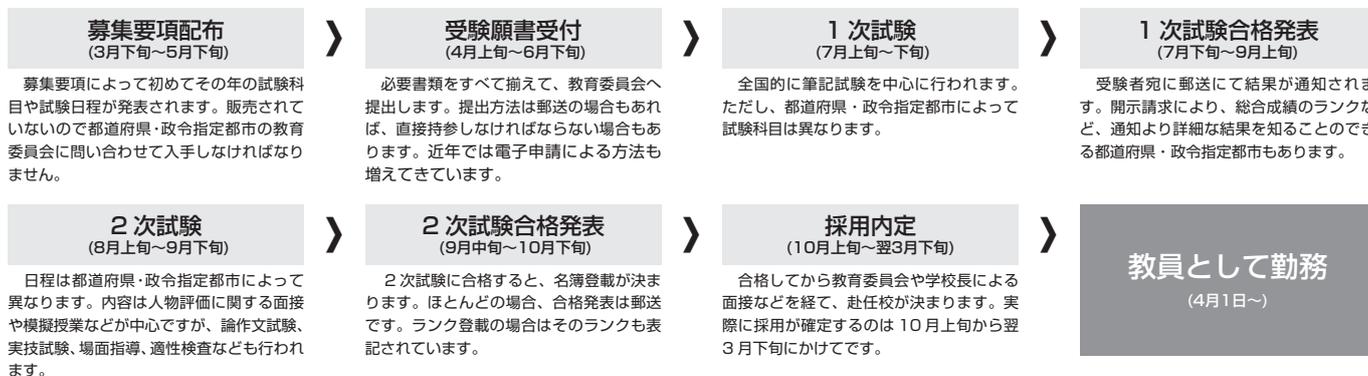
教員

教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教諭及び養護・栄養教諭になるには、各校種・教科ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は専科）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の

教科及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

[公立学校の場合] 教員採用試験の出願から採用までの流れ



教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の5つの試験があります。

【論文試験】

教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重要視されています。

【筆記試験】

教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの都道府県・政令指定都市が両方の試験を課していますが、片方だけを課するところもあります。

【実技試験】

小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えていきます。

【面接試験】

個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1次・2次を通して2～3回面接を行う都道府県・政令指定都市も見られるようになり、特に模擬授業は約7割の都道府県・政令指定都市が取り入れています。

【適性検査】

教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレベリン精神検査、Y-G 性格検査、ロールシャッハ・テストなどが用いられます。

[採用試験後の流れ]

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査）」といい、教員として採用する候補者として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるでしょう。最終合格発表（2次試験合

格発表）は都道府県・政令指定都市によっても異なりますが、概ね9月中旬～10月下旬頃に行われます。しかしその頃は、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用され

ないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後1年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、1年間採用されなかった場合でも次年度の1次試験が免除される都道府県・政令指定都市も見られます。

[私立学校の場合]

採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CDやDVD等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就職】

1. 公共図書館

各自自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1次試験は教養試験（多肢選択式）、2次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3. 国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司書教諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にも認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成15年度から12学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくはP6を参照してください。

学校司書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の3つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の3つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就職】

公立学校の場合は、各自自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学芸員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就職】

1. 公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほか、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

教員養成への期待

文学部 特任教授 肝付 俊朗

1985年、専修大学法学部を卒業し、その後、東京都の教員としての職務を果たしてきた。この度、37年ぶりに母校に通うようになり、文学部特任教授としての生活が始まった。生田緑地に広がる生田キャンパスは以前と同様、緑豊かで春風が心地よい4月であった。コロナ禍にあって、昨年度は前期を中心にオンラインの授業を余儀なくされたが、今年度は、感染対策に十分努めながら、基本的に対面による授業展開が進められ、キャンパスも活気に溢れている。学生達のキャンパスライフを確保し充実することは、学生達のこれからの生き方や人生にも良い影響を与えるものと、安全かつ安定したキャンパスライフを祈っている。

専修大学において、教職課程を履修し、教員免許取得を目指す学生は毎年各学年に200人程いる。教員採用試験を突破し、教育現場で教職に就く学生も多い。また、卒業後も地道な努力を継続し、教員になる人も少なくない。専修大学の教職課程での学びが、一人一人の夢や希望の実現にとって有意義なものであり、その後の教員人生はもちろん、それぞれの人生に活きる糧となることを願っている。

さて、教職を目指す学生にとって、小学生、中学生、高校生と児童・生徒として学校に通学してきたのであるから、学校は決して見知らぬ場所ではない。しかし、教員という立ち位置で学校を見ようとすると、それは、学生にとって、未知の世界になる。専修大学の教職課程では、実際の学校現場に触れられるような、現職教員の模範授業や協議、学校訪問や授業実践などが進められ、さらに、近隣地区と連携しながら、学校教育ボランティアやスクールライフサポーター等の学校現場での指導経験の機会を大切にしている。

学生には学校の現状と子供たちの実態を踏まえ、教職を目指して

ほしいと思う。そんな学校現場の最近の課題を取り上げる。

1 学習評価の充実

中学校では、2021年から新学習指導要領に基づいた教育課程が進められている。高等学校では、2022年から学年によって段階的に実施されている。これまで学校では、「主体的・対話的で深い学び」が進められる授業改善や教育目標をもとに目指す児童・生徒像を実現するための総合的な学校運営の改善に向けたカリキュラムマネジメント等について研修や研究に取り組み、実践に努めている。そうした取組において、現在、学校現場で課題となっているのが、適正な学習評価の実践である。新学習指導要領のもとで、評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」となっているが、特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方に悩む教員が多い。学校の教員たちは、これまでの評価の観点が4観点から3観点に変わったことや「関心・意欲・態度」の評価からの変更について、研修等を通して理解はしているつもりでも、実際の評価方法のこれまでとの違いや何を根拠に評価するのか等について戸惑うことが多く、適正な評価の在り方について課題意識をもつ学校や教員が多い。信頼される適正な評価の実施に向けては、①具体的な学習活動に即した単元の評価規準を設定すること。（「主体的に学習に取り組む態度」については、生徒の期待する成長の方向性や期待される姿について明確に言語化すること）②単元指導計画における評価計画（いつ・何によって・何を評価するのか）を明確にしておくこと。③「単元を貫く課題」や「本時のめあて」を明確に示し、それを生徒に自覚（意識）させながら、振り返りや自己評価をもとに、生徒自身の成長を自覚させること。特に「主体的に学習に取り組

む態度」については、レポートや振り返りシート等で気づかせ、確認させ、言語化させることにより、生徒に自分の成長を自覚させたり、成功や達成への道筋や要因を明らかにさせたりすること。その上で④単元末等の成果物やテスト等による「評定のための評価」と学習活動の最中のスモールステップによる見取りによる「指導のための評価」を両立することが大切である。教職を目指す学生には、模擬授業等において、学習指導要領の内容を基に各教科のねらいや単元のねらいを理解するとともに、学習する子供の視点に立った授業の工夫や子供の成長を促す評価の工夫について高い意識をもって学んでほしいと思う。

2 部活動の地域移行

2022年6月に運動部活動の地域移行に関する検討会議において、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が取りまとめられ、スポーツ庁長官に手交された。公立中学校等の部活動を対象とした提言であるが、少子化が進む中で、部活動運営が困難になっていたり休日返上で部活動の管理及び指導が教員の負担となっていたりする現状に対し、長年の課題の解決に大きな前進となる提言である。部活動は、学校にとって教育課程外の活動であるものの、教育活動の活性化につながり、また、教師と生徒のより良い人間関係の構築や生徒の心身の成長に大きな成果をもたらす意義のあるものである。それだけに、中学校の部活動には、生徒たちや保護者、地域からの熱い思いや期待が寄せられており、だからこそ、それに応えようとする教員たちには大きな負担となっているのである。今回の提言において、2023年度より、休日の運動部活動から段階的に地域移行することの方向性が示され、地域人材やスポーツ団体、環境を生かし学校と連携しながら、工夫された取組が求められて

いる。しかし一方で、教員を目指す学生には、「部活動の顧問として部活動運営や生徒指導にあたること」を夢や理想に掲げている人が少なくない。自らの経験でこれまで有意義な部活動との関わりがあったからだろう。学校現場にも、高い意識と意欲をもって、熱心に部活動指導にあたっている教員はいる。行き過ぎたバランスを欠いた部活動運営はあってはならないが、教員のやる気は尊重していきたい。ただ、その競技に関わったことがなく、指導することも困難で、無理をお願いされることによって、大きな負担となっているようなことは、今後の改善の良い機会である。しかし、地域の受け皿が保証されなくては、結局は、学校及び教員の負担は変わることがない。また、生徒たちにとって、興味関心のあるスポーツや活動に意欲を持って取り組み、その技術を向上させ、生涯にわたって親しむことができるようになることを願う。そのためにも、行政や民間との連携によるシステムの構築が必要であり、さらに、地域や保護者にも、それを積極的に支え応援しようとする姿勢が求められている。

3 生徒指導提要の改訂

講義を通して、学生たちに生徒指導の場面について、イメージさせると、集団や個々に向けての、説諭や叱責等、課題に対しての指導場面を思い浮かべることが多い。また、学校生活上の問題があったときに、教員が親身に関わってくれたり、解決してくれたりを挙げる人もいる。確かに、こうしたことも、生徒指導の一つであるが、生徒指導の目的は、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を身に付けさせることである。そのために日々の教育活動において①生徒に自己存在感を与えること。②共感的な人間

関係を育成すること。③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助することが大切であり、教員は、教科指導はもちろん、道徳及び特別活動等の様々な場面でこうした視点で指導に努めている。

2022年8月、文部科学省は、改訂の検討が進められていた生徒指導提要について、「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」において、生徒指導提要改訂（案）を発表、12月に改訂版を公表した。生徒指導提要とは、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法を時代の変化に即して網羅的にまとめたもので、2010年に示されて以来、今回が12年ぶりの改訂となる。特に「積極的な生徒指導」の充実を掲げ、法令等の施行や社会の変化及び今日的な生徒指導上の課題を踏まえ、これまでの生徒指導についての基本的な考え方を基に、さらに、対象となる子供に応じて発達支援的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育・課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導と分類・整理し、常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導の創意工夫の一層の必要性が述べられている。そうした中で、報道等でも特に注目されたのは、発達障害や性的マイノリティの児童生徒に対する学校の対応や校則の運用・見直し等であった。実際に、現在学校において、特別支援教育の理解が進められ、個に応じた指導の充実が進められている。また、同様に、生徒の個性に対して、「合理的な配慮」を基本に理解と組織的な支援が進められている。今回の生徒指導提要の改訂はこうした実践を積極的かつ理論的に整理し、改めて基本書として示されたものであると認識している。校則の運用・見直しについては、学校に在籍する子供、保護者及び教員が、その教育的意義や必要性、設定に至る経緯等を理解した上で、現代の社会常識や価値

観を踏まえながら見直すことが大切である。人権上疑念がもたれたり、社会通念上課題が見られたりする校則は当然改善するべきであるが、子供たちが自分事としてその意味を理解して自主的に校則を守るように指導していくことが重要である。校則について、「子供対教師」の構図をもって、悪しきものとしてとらえさせることは、「自己指導能力を身に付けさせる」という生徒指導の趣旨にそぐわないものである。

近年、教職を希望する学生が減少し、教員不足や教員採用試験倍率の低下が大きな課題となっている。ベテラン教員の定年等に伴う大量退職や教員採用試験の時期が民間企業の内定等の時期より遅いこと、そして、教職のイメージの悪化が背景にある。確かに教員としての仕事は大きな責任と労力を伴う。困難や苦勞することも少なくない。しかし、教員として子供に多大な影響力を与え、その成長を支え、人間を育てる教員の仕事は尊く、やりがいのあるものである。採用者数の計画的な確保や教員採用制度の改正等は行政に期待するとともに、学校内の業務改善や働き方改革は組織の見直しや校務の整理、ICTの有効活用等によって取り組んでいくべきである。一方、教職の意義や役割を理解し、真に教職を目指そうとする意欲と力量を備えた学生を育て、子供たちが夢と希望をもち未来を切り開く力を育てる学校教育を支えるのは、養成時期を担う大学教育の責任である。教育にはその時代ごとに求められる役割や期待がある。教職を目指す学生達には、多くの経験と学びによって豊かな人間性と知性を磨き、教育に携わることによって社会に貢献し、目の前の子供たちと自らを向上させようとする意欲と実践力を大いに期待する。



「私立専修大学」と改称した頃

教職課程



10号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

長野県茅野高等学校 教諭 勝野 未彩（令和2年度文学部日本語学科卒業）

はじめに

みなさんこんにちは。私は長野県茅野高等学校で国語科の教員をしています。着任して2年が経ちました。今年度はまだ担任を持っておりませんので、皆様にお伝えできることは微々たるものですが、教員を目指す方の励みになれば幸いです。

勤務校について

私が勤務している高校は2クラス募集、3クラス展開で、1クラス20~26人程度、全校で200名ほどの小さな高校です。生徒数は少ないですが、その分一人一人の生徒と関わることができます。また個性豊かな生徒が多いため飽きることがありません。教員の数も少なく、そのうえ若い教員が多いため、全教員で支え合いながら和気藹々と学校運営をしています。自分の出身校とは雰囲気が異なるので戸惑うことも多々ありますが、生徒や同僚に励まされながらなんとかやっています。

教科指導

いま私の目の前にいる生徒は、全員が勉強嫌いではないとしても、勉強自体に抵抗感を持ち、授業に積極的になれない生徒が多くいます。そういった生徒のために授業をする上で気をつけていることは、生徒が見通しをもって授業を受けられるようプリントで授業を行っていること、識字に困難を抱える生徒には教科書本文にルビを振ったプリントを渡したり、その授業プリントもなるべくルビを振ったりと、困難をなるべく排除しています。誰でも理解しやすい授業を心がけ、細かな声かけをするなど丁寧に授業に取り組んでいます。

私が教員になってからずっと悩んでいることは、教材研究の時間が満足にとれないということです。私は国語の面白さを生徒に伝えたいという思いから教員を志望しました。わかりやすい授業を提供するためには教材研究に打ち込むことが必須だと思っていますが、いざ教職に就いてみると、授業以外の業務（分掌、部活動など）や雑務に時間を割かれ、教材研究はある程度の妥協をしなければならぬ状況です。大学生のうちにもっと読書や研究をしておくべきだったと感じます。

校務分掌

先にも述べた様に茅野高校は教員の数が少ないため、担任を持っていない者は分掌が二



授業プリント（生徒のもの）

つ割り振られます。昨年度の私は進路と教務、今年度は生徒支援と生徒会と、着任2年ですべての分掌をコンプリートしました。今年度は生徒会で文化祭担当になったため、文化祭の一か月前はめまぐるしい毎日でした。「忙殺」という言葉はこういうときのためにあるのだと感じるほどでした。そして忙しい時に限って生徒指導案件が発生し空きコマに生徒と面談をし、と、やってもやっても仕事の終わりは見えません。できることは早めに済ませておくことが重要だと痛感しました。文化祭は生徒とぶつかることもあり、コロナ禍で制限されることもありましたが、いい文化祭を作り上げることができました。

部活は軽音楽部の顧問をしています。自身も高校・大学と軽音楽を嗜んでいたことに加え部員も4人しかいないので、部活の負担はあまりなく過ごせています。人数不足のため文化祭では生徒と一緒にステージに立ちました。



文化祭で生徒とともに演奏する筆者（左端）

おわりに

教員は「繋げていく」存在だと私は思っています。人や社会、また知識や体験など、人を横にも縦にも繋げられる存在です。私は今までお世話になった先生方を信頼しています。それは先生方が今できることに精一杯取り組んで、それを一生懸命に伝えてくれた姿を見てきたからです。出会ってきた先生方のように、私も信頼される教師になれるようこれからも努力していきます。そして自分が貰ったものや得たものを次に繋げていけたらと思います。皆さんが希望を持って教員になれるように、私も頑張ります。

卒業生から（グローバル・スタディ〈英語〉）

さいたま市立土屋中学校 教諭 杉本 真実（平成26年度文学部英語英米文学科卒業）

1. はじめに

私は大学院を修了して、平成29年度に本採用でさいたま市の教員となり、教員歴6年目となる今年度本校に異動しました。本稿では、5年間の教員生活で見えてきたことについて、皆さんにシェアしたいと思います。この1ページが教職を目指す皆さんのひとつの助けとなれば幸いです。

2. 教科指導 ～「英語『を』教える」からの卒業～

まず、さいたま市独自の英語教育「グローバル・スタディ」について説明させていただきます。これは、全ての市立小学校・中学校で、小1から中3までを一貫した教科で行う教育です。将来子ども達が外国人に、自分自身や日本・さいたま市の伝統や文化、社会的な課題等について、堂々と伝えられる力を育成する、いわば英語と総合が組み合わさったような教科です。単元終わりにテストを実施しますが、学年や単元によって、その形式はプレゼンテーションから読書感想文、ディスカッション、ディベートまで様々です。評価もALTと協力しながら行います。

「All in Englishでの授業を」「生徒主体の授業づくりを」と何年も言われている中で、我々教員はAll in Englishで何を子ども達に伝え、子ども達は何を学ぶのか、を日々考えています。また、教科（特に外国語）の授業においては「状況」「場面」「目的」をはっきりさせた上で単元の計画を立てると、生徒も教員も軸がブレずに毎日の授業を行うことができます。お互いに同じ方向性で単元のゴールに向かって学びを進めているとも言えます。



単元の指導計画表

3. 生徒・保護者との関わり ～「嫌われた人」はいない～

子ども達と長い時間関わる身近な大人として、教員は彼らの生活面も見守る必要があります。生徒や彼らの保護者とコミュニケーションを取る中で、意見の食い違いでお話がうまく伝わらないこともあります。時には感情的にお話をいただくこともあり、どうしたものかと悩みました。そこで、他の先生方との相談や外部研修を通して気づいた大切なことは、「嫌われた人はいない」ということです。意見が合わず、対立していても、「自

立した心地よい学校生活」という最終的なゴールは一致していて、その到達点に向けての道のりがお互いに違うだけなのだとわかりました。生徒に対しても保護者に対しても、あの人はこういう性格だから、ああいう家だから、と諦めて接するのではなく、時間がかかってもしっかりと話し合いをすることでお互いに歩み寄ることができると感じています。

4. 日々変わり続けている教育現場

たった5年間と少しの教員生活ですが、学校の中で急激な時代の変化を肌で感じています。まず、現場ではGIGAスクール構想が実現されつつあります。さいたま市の子ども達も一人一台タブレット端末を持ち、授業に参加しています。STEAMS教育も始まり、彼らは様々な分野でICTを上手に使いながら学びを生み出しています。このように一気にICT教育が進むようになった一つの要因は、新型コロナウイルス感染症の急拡大です。「いつでも学習者の学びを止めてはならない」という思いから、小学校から大学までオンライン授業が始まったと思います。ここからICT教育の可能性が広がりました。

私たちが今まで持っていた「『教員側が画面を見せるスタイル』のICT教育」のイメージは捨てなければなりません。今や端末は子ども達の手に入り、学びのゴールに向けて、その活用方法は子ども達によって多種多様なのです。

5. 終わりに

「とにかくがむしゃらに頑張る」5年間を終え、キャリアステージも今年からいよいよ中堅期。様々な仕事に追われての多忙な毎日ですが、振り返ると、ここまでに成長できたのは、大学・大学院で出会った先生方や友人、そして初任校での5年間で多くの先生方や生徒達の出会いがあったからだと思います。これからも人やお仕事との出会いを大切に、一步一步、子ども達へ学びを提供し、自身も地道に学び続け、さいたま市の教育に貢献する教員でいたいと思っています。



50m走のタイムを上げるための分析（総合的な学習の時間の「STEAMS TIME」呼ばれる授業のひとつコマ）

卒業生から（地理歴史・公民）

東日本大震災津波伝承館 主査 武田 麻紀子（平成13年度文学研究科哲学専攻修了）

〇はじめに

教員1年目の時も、専修大学の雑誌に載せる体験談を書いたことがありました。その時は、まさかこんなにいろいろな変遷(?)を辿ることになるとは思っていませんでした。人生ってわからないものです。そのため、皆さんの参考になるかは疑問ですが、今までの私の教員人生を紹介します。

〇2校目で震災

奇しくも2校目は、実家のある岩手県宮古市の高校でした。勤務6年目、次の異動先も決まっており、学年の送別会を計画していた3月11日に東日本大震災が起こりました。そのとき、年度末の短縮授業のため部活動の最中でした。揺れが落ち着くと急いで生徒たちと校庭に避難し、部活ごとに安否確認を行いました。校庭に大きな地割れができていてとても不安でした。まだつながっていた携帯電話で地震情報を確認すると、10メートルの大津波警報が発令されたことを知りましたが、校舎は高台で浸水区域ではなかったため、津波は来ませんでした。避難所指定になっていないにもかかわらず、地域住民の方々が学校に避難してきました。中には全身がずぶぬれの人や、けがをして血を流している人もおり、生徒たちと一緒に着替えのための使っていないジャージをかき集め、カーテンで包帯を作るなどその時にできることをしました。学校は一週間、避難所になりました。

震災の同年12月、私はJICAの教師海外研修事業で、2004年スマトラ沖地震のあったインドネシアのバンダ・アチェを訪れる機会がありました。東日本大震災と同規模の地震と津波を経験し、市内だけで6万人の犠牲者がでたアチェは、7年の時を経て、力強く復興の道を進んでいました。日本の支援で建てた小・中・

高校を訪問し、子どもたちと交流する中で、「たくさんの支援に感謝している。今度は私



JICA 研修アチェにて(左端の後ろ姿が筆者)

たちが返したい」という言葉に胸が熱くなりました。

〇4校目?県立博物館勤務に

3校目に勤務しているときに、専門分野を研究し直したいと考え、東北大学大学院文学研究科博士課程を受験しました。当初は、在学期間は休職しようと考えていたのですが、諸々ありまして、岩手県立博物館に異動となり、仕事と学業の二足の草鞋を履くことになりました。専門学芸調査員としての博物館の業務は、教員の仕事と全く違って戸惑いましたが、研究がそのまま仕事につながる事が多く、興味の幅と理解が広がりました。ちなみに、私の研究分野は日本思想史です。特に東北における自由民権運動を研究しています。

〇学校に戻ると思いきや、津波伝承館へ

岩手県陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館は、東日本大震災津波の事実と教訓を後世に伝承する



東日本大震災津波伝承館にて

とともに、支援への感謝と復興していく姿を世界に発信するための施設であり、2019年9月22日に開館しました。来館者は60万人を超えましたが、学校団体も多く、令和3年度でみると、小学生5,223人、中学生7,242人、高校生3,437人が見学に訪れました。

私自身が被災したこともあり、震災と向き合うことを避けてきたところがありました。今、津波伝承館の職員となり、東日本大震災津波を経験した子どもが少なくなっている中で、どのように復興教育をつないでいくか、毎日考えながら働いています。

〇おわりに

学校現場を離れてみて、実感したのは「生徒と離れると淋しい」ということです。さすがに次の異動では学校に戻るとは思いますが、生徒と向き合い自分が経験したことを活かせるかどうか、これからが正念場です。

1【はじめに】

皆さん初めまして。私は鹿児島県の徳之島という離島にあります唯一の私立学校に勤めております牧園慶悟と申します。今年で教員生活2年目を迎えました。教員としての経験は浅いですが、本稿が教員を目指す皆さんの一助となれば幸いです。

2【1年目の私と教材研究について】

1年目は主に担任業務の慣れと教材研究に時間を費やしました。2年生の担任を任せられ、「どうなるか?」と思いながら1年間駆け抜けました。1年目の担任ということで私は1学期の始業式にて「僕は全てが初めてののでいろいろみんなに教えてもらいながら一緒に成長していきたい」と伝えました。一見、担任として情けない姿かと思いますが、私にとって「担任はこうあるべき」というプライドは生徒のためにはならないと考え1番最初に伝えました。今ではよかったです感じています。

教材研究について、商業科は1年を通して検定が学校にもよりますが14回程あります。常に検定があるということ意識して授業を進行することはとても難しいです。そんな中でも私は、学んでいることが社会ではどのように役に立っているか?に重きを置いて日々取り組んでいます。例えば、マーケティングの授業では、授業の最初に「本時のニュース」という名目で時事ネタを用意し、生徒が主体的に物事を考える時間を設けています。これは生徒に商業的な見方や考え方を身に付けさせる目的で行っていて今では、自発的にニュースを見る生徒が増えてきています。このように何か生徒に身に付けて欲しい何か?を明確に提示することで生徒も主体的に取り組むことができると私は思います。

3【2年目の私と担任業務について】

2年目は3年生の担任として迎えました。現在、進路も佳境に入り、生徒の進路実現に向けて取り組んでいます。毎日慌ただしい生活を送っていますが、充実しています。中には私の母校である専修大学に進学したいと言ってくれる生徒もいて嬉しい限りです。

担任業務において生徒に真摯に向き合うとよく言われますが、本当にその通りだと思っています。進路を通して1年目よりも生徒と向き合う時間が増え、生徒のちょっとした変化に声掛けを行うことを意識するようにしています。また、先生が生徒達を観察している

ように生徒も先生達も観察しています。その意識を持って担任業務に取り組むことが大切だと思います。

4【学級づくりとこだわり】

学級づくりにおいて私が大切にしていることは、行事ごとは全力で楽しむということです。私は学校行事以外に季節ごとの行事も全力で取り組むようにしています。担任が全力で取り組むことで自然と生徒達も全力で楽しむようになります。

また、私は学級づくりにこだわりを持っています。まず、「教室を常に綺麗に保つ」ということ。これは授業への取組みにも関わらないくらい大事なことで、教室が綺麗かどうかでそのクラスがどういうクラスかがわかるとも言われるくらいです。また、教室が綺麗だと問題を起こす生徒も自然と少なくなります。

さらに私は自分自身のこだわりとして月1で学級通信を必ず発行しています。特に生徒達の普段の様子を写真に撮り、掲載するようにしています。これは、保護者との信頼関係を築くためと生徒と保護者の会話の話題の一部になればと思って発行しています。

5【最後に・・・】

今年度私のクラスの目標は「～日々是成長～当たり前のことのできる人間へ」です。島に住む生徒達は島の常識の中で生きており、なかなか世間一般の常識を理解できていない生徒が多いのが現状です。高校卒業後は島を出て暮らしていく生徒が9割強いるためこの目標に設定しました。各地域の土地柄によって教育は変化するもの。地域の方々と交流することで見えてくる正解もあります。是非、型にとらわれることなく柔軟に教育と向き合ってみてください。

最後に、「教師を目指すなら全体の奉仕者であれ」。これは私が教育実習の際に学んだ言葉です。利己の利益を求める人には、教師は務まらない。全体の奉仕者としての覚悟、アドバイザーとしての覚悟を持って教師を目指してほしいと思います。皆さんが充実した教員生活を送れるよう、これまで述べた内容が少しでも参考になればと思います。教育現場での活躍を期待しています。



はじめに

この度、令和4年度実施神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和5年度より中学校国語の教員となります。微力ながら、この先採用試験を受けようと考えている方へ、少しでもお役に立てればと思い、私の体験記を書かせていただきます。

自治体の傾向分析

まず、自分の受験する自治体の試験の傾向や特徴を捉えることが大切です。私が受験した神奈川県の一次試験はマークシート形式でしたが、他県では記述式の一次試験を行っているところもあります。同じように、二次試験でも、小論文や集団討論、模擬授業の有無が自治体によって異なるので、いち早く受験先の試験について理解することが大切です。そうすることで、使用する参考書も選びやすいと思います。

また、私は神奈川県と試験日程がずれており、試験内容が似ている茨城県も受験しました。傾向を掴むことで、受験先の選択肢を広げることができます。

一次試験

本格的に一次試験の対策を始めたのは大学3年の夏休みでした。教員採用試験は、二次試験（人物試験）重視の自治体が増えていきます。そのため、いち早く二次試験対策を行いたいと思い、早めに対策を行いました。神奈川県では、過去の一次試験の合格最低点を公表しているため、それらを参考に、合格点を確実に取れるよう学習しました。大切なのは、一次試験に時間をかけすぎないことです。不安に思う時期もありますが、二次試験対策を中心に行うことが合格に近づくとおもいます。

専門教養は、マークシート形式の問題集を中心に行いました。教員採用試験用の参考書は記述式が多かったため、センター試験の赤本（神奈川県の問題と似ていると感じた）などを利用し、本番の時間内で解けるよう練習しました。

教職教養は、神奈川県で頻出のものを中心に学習しました。参考書でインプットした後は、問題集や全国の過去問などを利用し、アウトプットしました。参考書を読んでいるより、問題を解いた方が定着しやすいと思います。

一般教養は範囲がとても広いが、各分野で数問しか出題されないため、やみくもに学習すると非効率です。なので、自分が得意な分野や自治体で頻出のものを中心に学習し、合格点を超えることができれば良いと思います。繰り返しになりますが、大事なのは一次に時間をかけすぎないことです。

二次試験

試験科目の中で一番対策を行ったのが、個人面接です。年明けには模擬面接を行えるよう、自分の教育観や答案を作成しました。模擬面接は、私の所属していたバンピの会の先生方や学生たちを中心に行いました。回数を重ねるごとに、面接に慣れてきて不安も減っていきました。そして、他の人の模擬面接を見学したり、試験官役を行ったりすることで個人面接に対する考え方が深まると思います。試験直前には、大学主催の対策講座を受講し、本番に近い形で練習を行うことができました。その際に、入退室の仕方や所作などを確認することができました。

小論文は、3年の冬頃に書き方を理解し、年明けから執筆しました。先生方に添削していただき、回数を重ねることで、次第に書けるようになっていくと思います。初めは、添削の文字で答案用紙が真っ赤になり、不安に思うこともありますが、少しコツを掴むと一気に書けるようになります。私は、完成した答案の構成メモを一冊のノートにまとめていました。そうすることで、隙間時間や試験前に読み返すことができます。実際に試験では、ノートに書いたテーマができました。

おわりに

採用試験対策は長期戦です。周りの就職先が早く決まり、不安に感じることもあるかと思いますが、その際は、共に教職を目指す仲間と励まし合って頑張ってください。応援しています。



二次試験の模擬授業で使用した教具

【はじめに】

この度、令和4年度実施神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和5年度より高校英語の教員となります。採用試験を受験しようと考えている皆さんのお役に立てればと思い、体験記を執筆いたします。

【かながわティーチャーズカレッジ】

3年次の5月には県が開講している教職セミナー「かながわティーチャーズカレッジ」の選考に挑戦しました。4月中に小論文の書き方を勉強し、自分の意見を口頭英語で表現する練習をして備えました。

晴れて本セミナーの参加が決まり、8月から月に1-2回講義を受け、週に1回以上の授業補助ボランティア活動、現場の公開授業見学等に取り組みました。県が求める教員像を学べたことに加えて、一緒に受講していた他大学の学生や臨時的任用職員とつながることができました。ここでできた友人は4年次の教育実習や採用試験前の大きな支えになりました。指導案の添削や面接の情報交換ができる仲間になっていました。今でも、合格できた同期として連絡を取り合うことがあります！



かながわティーチャーズカレッジで活動中の様子

【模擬授業・面接】

私は資格課程事務室にある教職雑誌を読みながら4年次の5月中に面接票の下書きを完成させました。教育実習を終えた6月上旬には模擬授業の単元を定め、指導案を書きました。英語科は日本語と英語の両方で指導案を書くことが求められるため、英語の文法的なミスがないか不安に思い、教育実習2とゼミの教授にご指導を依頼しました。また、掲示物を使用可という条件でしたので、写真や文字をA3の紙に印刷し、マグネットを掲示物の裏面に付けるなどの作業をしました。

練習は、大学の対策講座と、友人・先輩とGoogle Meetで行っていました。私は二次の日程が最も早い日に当たってしまい、大学

の講座を2日しか受けることができず不安でした。そこで、教室を借りて友人たちと模擬授業の練習



模擬授業の教具の一部、大学で模擬授業を練習中

をしました。私は面接30分を4回、模擬授業を10回以上は実践しました。

【実技】

英語科には模擬授業・面接の一週間後に実技英語コミュニケーション試験があります。この配点が120点とかなり大きく、これが原因で落とされることがよくあると聞いたこともあり、かなり緊張したのを覚えています。

4年次の7月上旬に教育実習2の授業で一度通し練習をしました。その時は、日本語で言いたいことが思い浮かんでも英語に変換するのに時間がかかって返答が遅くなっていました。これを解決するために、LA教職履修者のGoogle Classroomに載っている先輩方が残してくださった過去問をノートに全て書き写して、その返答を自分なりに考えて書き込み、一問一答形式のように自主練習をしました。毎年、日本の文化を英語で説明する題が問われると聞いていたため、日本文化について英語で書かれている本を1冊読みました。そして模擬授業と面接を受験後の残り一週間では、別の自治体を受験している友人に出題者役をお願いしてLINE電話やGoogle Meetなどのオンラインで4回以上は通して実践しました。

【終わりに】

私の学年には採用試験を受ける学生が少なく、やる気を維持するのに苦労しました。決して一人の力だけでは、現役で合格することはできなかったと思います。教職セミナーで出会った仲間、採用試験を受ける数少ない同級生、指導してくださった大学・教育実習校の先生方など周りの方々への感謝でいっぱいです！皆さんの勉強・採用試験が上手くいきますように！！

はじめに

皆さん、こんにちは。私はこれを書いている時点では文学部歴史学科4年生の植草亮太です。令和4年度東京都公立学校教員採用候補者選考(令和5年度採用)を受け、名簿登載(合格)されました。そして令和5年4月より中高社会科の教員となります。私の教員採用試験の体験が、これから教員採用試験を受ける皆さんの一助となれば幸いです。

1 次試験対策

私が1次試験で最も対策したのは論文です。論文は大学で受講できるTACの論文対策を受講していました。その論文の対策をしている中では、時間との闘いが自分の課題点でした。東京都では70分で910字以上1050字以内を書き上げなければいけません。またテーマも事前に提示されるものではないため、その場で考える必要があります。では、私がどのようにして論文を書き上げるに至ったかということ、論文の回数をこなすことです。私は本番までに、15回以上書いていますが、これでも少ない方もかもしれません。そして書いた論文は、誰かに添削してもらうことをお勧めします。私はTACを受講していたので、TACの方に郵送して添削していただきました。ただ、大学でも教職の先生方に添削をお願いできると思うので、積極的に論文を書いてください。

また教育実習が前期にあるならば、実習終了後1次試験まで時間がないので、早めに対策を行うことが重要です。

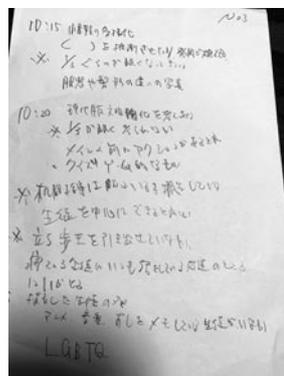
2 次試験対策

2次試験では集団討論と個人面接がありました。私は、1次試験の結果に自信がなかったので、1次を突破してから対策を始めました。本当に焦るので、1次試験を終えたらすぐに対策することをお勧めします。私はこの短い期間の中で、自分の経験を生かした面接対策を行いました。例えば、私は不登校支援のボランティアをしていたので、この内容は聞かれると思



大学の二次試験対策講座で作成した単元指導計画

い、東京都の教育目標や指針とボランティアでの経験を結び付けられるようにしました。また、教育実習の際の先生方からの指摘を単元指導計画に組み込みました。特に校長先生から指摘を受けた「生徒を立ち上がらせて、主



教育実習での指導内容

体的・対話的な授業を促す」という点は内容を掘り下げて聞かれたので、面接官の方が興味を抱いてくれたと思っています。

そして、個人面接では少し焦った質問がありました。「東京都以外の教育目標で知っている所と内容を教えてください」という質問です。私は、東京都以外を考えていなかったのですが、完璧に覚えていなかったのですが、千葉県の教育目標を少し見っていたので、それを答えることができました。それを答えた後に、もちろん千葉県の次世代を意識した教育もとても大切であると明言したうえで、それでも東京都の教育施策である「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」に共感したことをアピールしました。

2次試験では人物重視の傾向が本当に強いと思います。しかし、東京都の基本的な教育方針を知っており、場面指導でも決められた対応を取れるかという点も重要です。その中で、生徒に対する愛情を持ち、組織人として協働できる姿を面接官の方々にアピールしてください。

おわりに

採用試験に合格するためには、日々の「積極性」が大切になると思います。自らボランティアに取り組んだり、面接練習をお願いしたりと積極的に行動することが重要です。また教育に関する知識のために、指導書を読んだりして積極的に知識を取り入れることが必要だと思います。これらの経験や知識を面接で丸暗記のような形ではなく、元気よくアピールしてきてください。これから採用試験に挑むみなさんが教員として活躍できるよう陰ながら応援しています。

1. はじめに

この度、静岡県公立学校教員（高等学校教員）採用選考試験に合格し、来年度から商業科の教員として働かせていただくことになりました。このような貴重な機会をいただきましたので、教員採用試験について私の体験を書かせていただきます。これから教員を目指す皆さんにとって、少しでもお役に立てれば幸いです。

2. 一次試験

一般教養、教職教養、専門教養、個人面接が行われました。3年の4月から試験情報を集めはじめ、夏ごろから対策をはじめました。

一般教養と教職教養は合わせて60分、マーク式で行われました。一般教養と専門教養は「教員採用試験対策講座」



専門教養対策

で使用するTACのテキストや授業と、過去問を利用して学習を進めていました。自分が受ける自治体はもちろん、他自治体の過去問も解いたり、バンビの会（教職の勉強会）で先生が作成してくださった問題を解いたりすることで問題に慣れながら、理解を深めていきました。

専門教養は90分、記述式で行われました。問題数が多いので時間との戦いでした。商業の教科専門に関するテキストは売られていないので主に過去問と全商検定1級の問題集などを用いて学習を進めました。過去問は自分が受ける自治体と、それと似た出題傾向がある他自治体の問題を集めたり、同期と集めた問題を提供し合ったりしてなるべく多くの問題を解くようにしていました。専門教養も教職教養などと同様、演習から間違えた部分を復習することを繰り返しました。なるべく早くから学習をはじめ、自分なりの学習方法を見つけられると効率よく対策していけると思います。

3. 二次試験

個人面接、集団討論、小論文が行われました。一次試験の面接時間は約5分で3問ほ

どでしたが、二次試験では約20分で15問ほど聞かれました。二次試験対策は3年の冬ごろから本格的にはじめました。バンビの会の先生方や先輩方、同期、教育実習担当の先生、実習校の先生方など本当にたくさんの方に見ていただいて、たくさんアドバイスをいただきながら対策を重ねました。二次試験対策は一人でできることに限りがあります。緊張感に慣れ、話し方や表情などを身に付けるためにはとにかく練習あるのみです。いろいろな方に見ていただいて、アドバイスをもとに改善を重ねます。途中、自分を見失いそうになっても、自分の軸をぶらさないことが重要です。そのため私は面接ノートを活用していました。練習ごとに何を聞かれて、どう答えたのかを記録し、いただいたアドバイスも一緒に記録します。頭の中で考えていても言葉にしようとするのが難しいので、記録として残すことは大切です。また、記録として残すことで自然と自分の軸がはっきりしてくるので、悩んだとき解決の糸口になります。面接で聞かれる内容は論文の内容にも関わってくるので、合わせて教育関連のニュースや、教育時事をまとめると一冊で二次試験対策に活用できる万能アイテムになるのでおすすめです。練習を重ねただけ自分の考えが深まり、自信が持てるようになるので本番に堂々と望むことができると思います。

4. おわりに

私が教員採用試験に合格することができたのは、たくさんの方々の支えがあったからだ実感するとともに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。とくに同期2人の存在は大きく、2人がいたからこそここまで頑張ることができたと思います。目標を成し遂げるのはとても大変なことですが、一緒に頑張れるひとがいることは何より心強く、活力になることを実感しました。私も生徒たちにとって頑張るための活力となれるような教員を目指し、精進していきたいです。みなさんの夢や目標も実現されるよう応援しています。



面接ノート

1. はじめに

この度、令和4年度東京都公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、4月から教員の道に進みます。恐縮ではございますが、機会をいただきましたので体験記を残させていただきます。読んでくださる方にとって、少しでも参考になれば幸いです。

2. 1次試験対策

東京都では、一般教養がない分、専門科目と教職教養が難しいと言われていました。専門科目は1年次から、教職教養は2年次の後期から学習を始めました。最初から多くの時間を費やしていたというよりは、時間がある際に少しずつ進めていくという学習方法でした。

教職教養では、時事通信社の「@じぶんゼミ」と、バンビの会からいただけるプリントを使い、演習と復習を何度も繰り返しながら学習を行いました。大切にしていたことは、知らなかったことや分からなかったことをわからないままにしないために、隙間時間を有効に使うことです。学部の授業や私生活が忙しいと、まとまった時間が取りにくいという時も存在します。そんな時に、何もなかったら周りとの差は広がってしまいます。だからこそ、少しでもいいのでコツコツ学習を積み上げることが必要なのではないかと思います。

専門科目は、学部で開講されている数学関連の授業を積極的に履修したり、数学技能検定のテキストを使用したりして学習を行いました。こちらは、教員採用試験に合格するためというよりも、自分自身の数学力を高めるために学習をしていました。

どちらも共通して、時間は有限であるからこそ、むやみやたらと学習することはお勧めできません。過去問も販売されているので、自分の受験予定の自治体の過去問は早めに解き始め、自分が苦手な部分やよく出てくる部分を優先的に学習していくということが大切なのではないかと思います。

3. 2次試験対策

単元の指導計画の作成は、教育実習の際に実習校の指導教諭の先生に見ていただいたものを改善する形で作成を行いました。最終的には面接に必要な単元の指導計画や面接票は、望月先生をお願いをし、添削をしていた

いただきました。ありがとうございました。面接練習では、大学で開催されていた直前講座と東京アカデミーの直前講座に参加しました。試験直前に練習する機会があったことはとても貴重であったと思います。また、私個人の意見として、東京アカデミーの直前講座では、面接でのポイントを細かく教えていただけたので、参加した価値は大いにあったと感じています。

大切なことは、軸を曲げないということと、1次試験が終わってからの準備では遅いということです。面接の際にも、軸がずれてしまうと、話に一貫性が失われてしまい、不審に思われてしまう可能性があります。教育に明確な正解がないからこそ、信念を持ち、その軸に合わせて準備をしていくことが必要になるのではないかと思います。また、1次試験の勉強と両立させながら2次試験の勉強もしておく必要があります。特に、筆記試験と比較した際に、面接は自分自身で成果が見えにくいものであると思います。だからこそ、早いうちから対策をし、さまざまな人からフィードバックをもらい改善していくことが必要になるのではないかと感じました。

4. 結びに

私が合格をいただけたのは、実習校の指導教諭をはじめとした諸先生、友人、バンビの会の皆様、ネットワーク情報学部の望月先生をはじめとして、大学の関係者の皆様の支えをいただいたおかげであると思っています。この場を借りてお礼申し上げます。

教員採用候補者選考試験に合格できるかどうかは自分次第です。対策を早くから始めるといったことに間違いはありませんが、自分一人ではできないことには限りがあります。教育実習校や大学で指導してくださる先生方・教務課資格課程・友達・家族などの支えは欠かせません。ぜひ周りで支えてくださっている方に感謝を忘れず、時には息抜きをしながら、合格に向けて前向きに進んでいただければと思います。末筆ながら、皆様の夢や目標が達成されることを陰ながら応援しております。



採用試験対策で用いた教材

私は、令和5年度静岡市教員採用試験を受験しました。それまでの過程で、私がどのように過ごしていたのかということ、これから試験を受ける方々に向けて紹介させていただきます。

まず、私が小学校の教員になることを決めたときに行ったことは、同じように教員を目指し、試験に合格した先輩を見つけ、どのような対策を行ったのか、やった方がいいことなどを聞くということです。何も知らない私が、自己流で勉強を始めるより、経験者から話を聞き、それに取り組んだ方が、近道だと私は考えました。そこで私がもらったアドバイスの一つが、子供たちと関わる活動をたくさん行うべきというものです。それを聞き、私は学校教育ボランティアや学童保育、家庭教師や少年団のコーチといったものを始めました。これらを行ったことで、子供たちとの関係を築く方法を知ることはもちろんですが、教員採用試験の面接で話すネタを増やすという点でとてもいいと感じました。自分がどのような教師になりたいのか、そのために何をするのか、などの面接で聞かれるような質問に答えるためには、まずは子供たちと関わってみなければ思いつきません。また、それらの質問に対し、ボランティアで実際にあった出来事といった、経験から話すことができれば、説得力が増します。そのような点において、子供とたくさん関わるということは大切だと考えます。

次に、いつごろから、どのような勉強を始めたのか、といったことを紹介します。私は小学校教員志望であるため、中学校や高校を志望する方の勉強方法とは少し異なるかもしれませんが、ご容赦ください。私は、三年生の4月から少しずつ勉強を始めました。専科はある程度覚えているという自信があったため、まずは教職教養の勉強に取り組みました。そこで大切にすることは、とにかく過去問をたくさん解くということです。自分の自治体の過去問を解くということはもちろんですが、全国の自治体の過去問が載っているテキストを買い、ひたすら何通りも解きました。



「ありがとうの会」で児童が描いてくれた黒板

教職教養の範囲は果てなく広いわけですが、試験に出る場所はある程度決まっていると考えます。また、YouTube



教壇実習の様子

で出ている問題を、隙間時間に見て解くということも行いました。テキストに向かい、問題を解くとなると、やる気が出るまでに時間がかかります。しかし、YouTubeとなると気軽に見ることができるため、気づいたら覚えているということがよくありました。ある程度教職教養の自信がついてくると、専科の勉強を始めました。これも、過去問をひたすら解き、アウトプットを大切にしました。二次試験の対策も早めに始め、12月に初めて面接練習をしたのですが、最初はボロボロでした。しかし、バンピの会（教員採用試験対策をしていただけたところ）にて、先生方や先輩方と練習しているうちに、自信を持てるようになりました。また、その場だけではなく、自分で仲間を誘い、集団討論や個人面接の練習を行いました。

私はこれから対策する方に伝えたいことが二つあります。一つ目は、主体的に動いていくことの大切さです。勉強を始めよう、個人面接や集団討論の練習をするために、仲間を集めよう、そう思い、行動したからこそ、私は成長できたのだと私は考えます。二つ目は、支えてくれる人の大切さです。私はTACには参加せず、バンピの会に所属していたのですが、先生方や先輩方が必死になってサポートしてくださいました。また、同級生の仲間も、自分の試験に関係がなくとも練習を手伝ってくれたことがありました。その方々の支援がなければ、今の私はいません。本当に感謝しています。私のように、周りに頼ってほしいと思います。しかし、その分、これから後輩たちをサポートし、バンピの会に恩返しできればと考えています。

これで終わりではなく、いよいよ私は小学校教員となります。子どもたちの笑顔で溢れるクラスを作れるよう、精進してまいります。これから教員を目指す方々は、どんな先生になりたいか、どんな子供に育ててほしいか、そんな「自分ならではの思い」を常に持ち、日々を過ごして行ってほしいと思います。

教育実習を終えて（国語）

私立尚志高等学校 文学部日本文学文化学科4年 森田 美南

1. はじめに

私は、2022年5月9日から20日までの2週間、母校である尚志高等学校（福島県）にて教育実習を行いました。

母校には、普通科の他に情報総合科があります。また、普通科の中でも文系・理系・福祉系・医療、看護系・特別進学クラスとさらに細かく分けられています。ホームルームは普通科・特別進学クラスの2年生を担当し、授業は2年生の普通科・文系、福祉系の合わせて3クラスを担当しました。

ここでは、私が教育実習を通して学んだこと感じたことなどを書いていきたいと思えます。

2. 授業見学について

実習の1週目は授業見学をさせていただきました。私は期間が2週間でしたので、空いているコマのほとんどを授業見学にあて、先生方がどのように生徒と接し、どのような授業を行っているのかを見させていただきました。授業の仕方は多種多様でしたが、どの先生方も授業の中での生徒とのコミュニケーションを大事にしていました。生徒の発言、眩きを聞き逃さず受け入れ、授業に繋げていくことで生徒のやる気を引き出しているように感じました。

3. 教壇実習について

1週目の後半から教壇実習を行いました。本当は2週目から教壇実習を行う予定でしたが、教科指導担当の先生の計らいによって予定よりも早く教壇実習をさせていただけることになりました。

授業では2年生の現代文Bを担当し「みどりのゆび」（吉本ばなな）を扱いました。「みどりのゆび」は私自身も高校生の時に授業で習ったものなので、実際に自分が使用していたノートを参考に授業の準備を行いました。私は何かあった時のために中学・高校の教科書やノート類は捨てずにいたので、それを今回活用することができたので残しておいて良かったなと思いました。

授業準備は完璧でしたが、初めての教壇実習は私からすると悲惨なものでした。模擬授業で時間内に授業が終わらなかったことがトラウマで、教壇実習中も時間内に終わらなかったらどうしようということで頭がいっぱ

いで他のことが考えられなくなりました。結果、時間内には終わらせることはできませんでしたが、先生からは「生徒の様子をしっかりと見るように」と言われました。また、私は説明をするときや、生徒が板書をしている様子を見ているときも左側に立つ癖があると指摘を受けました。左側に立ってしまうと窓側の席の人たちは板書が見えにくくなってしまいますので立ち位置についても配慮していく必要があるのだと感じました。「先生、見えない」と言える生徒もいれば、なかなか口に出すことができない生徒もいるので自分で気づくことが必要、そのためには生徒の様子をきちんと見るということが大切であると実感しました。

最初の教壇実習以降は、指摘されたことを一つ一つ改善していきながら、落ち着いて授業を行うことで心に余裕ができ、少しずつではありましたが、生徒の様子を見ながら授業を行うことができました。また、同じ内容の授業でもクラスの状況や特色を見ながら説明の仕方を変えるなど臨機応変に対応していくこともできたと思います。

研究授業では、タブレットを活用させながら生徒の活動を増やしました。今まで余裕がなくてできなかった授業を踏まえての雑談を取り入れるなどコミュニケーションを増やし、生徒が意欲的になるような授業を研究授業では行えたと思います。

4. おわりに

2週間の教育実習は本当にあっという間で毎日が刺激的でした。教育実習で学んだことを忘れず、自分の夢への実現に向けて頑張ります。お忙しい中、学ぶ機会を与えてくださった先生方、生徒たちには本当に感謝しています。

実習を控えている皆さんは色々不安なこともあると思いますが、一人ではありません。支えてくれる人たちがたくさんいます。後悔のない教育実習にしてください。応援しています。



実習最終日のHR

教育実習を終えて（英語）

横浜市立永田中学校 文学部英語英米文学科4年 金津 真優

1. はじめに

私は令和4年6月6日から6月24日までの3週間、母校である横浜市立永田中学校で教育実習を行いました。教壇実習は2学年の担当でしたので、2年生計5クラスでの教壇実習（英語、道徳）と、担当クラスの2年5組のHR、部活動、行事など、大学の学びだけでは得られないことを多く経験させていただきました。3週間の実習内容や体験を皆さんにお伝えしたいと思います。

2. 教壇実習

実習の1週目は主に授業見学を行いました。私の担当科目は英語ですが、実習担当の先生に、「英語科だけでなく、色々な教科の授業を見た方が勉強になるよ」とアドバイスをいただいたので、1週間で全ての教科の授業見学に行けるよう、予定を組みました。教科ごとに先生方の授業スタイルや、生徒の様子に大きな違いがあり、とても勉強になりました。

また、実習が始まってから4日目に道徳の教壇実習を行いました。道徳に関しては事前の打ち合わせで何も聞かされていなかったため、実習1日目に道徳の授業を4日目にやってほしいという話をいただき、急いで授業案作成と授業準備を行いました。実習期間中に体育祭がある関係で、道徳の題材が長縄についての話だったので、生徒たちが「もし自分がこの場にいたらどう行動するか」を考えられるよう、授業作りを工夫しました。

実習2週目からは授業アシスタントと共に、授業の初めで行うSmall Talkを担当させていただきました。私が担当した2学年は5クラスだったので、5クラス全ての英語の授業（計14回）を担当することになりました。Small Talkとは、これまで習った文法を元に、トークテーマを設定し、英語で会話をする活動のことですが、生徒が話を続けやすいテーマ設定と、コミュニケーションの取り方に注意して行いました。初めは緊張してしまい、生徒にトークテーマを振った後、どうやって会話を広げていけばいいのか、うまくいかないこともありましたが、何よりも英語を楽しく使う様子を見せながら、積極的に話しかけることが重要であるこ



英語科教材

とに気づきました。

研究授業では、体育祭に絡めたトークテーマでSmall Talkを行いました。体育祭の競技名を英語でどう表現するのかを提示すると、生徒たちが興味を持って授業に参加してくれました。教壇実習を重ねるにつれて、生徒との関わりも増えるため、授業外でも授業内でも、積極的に話しかけに行くことが大切だと思います。



道徳教材

3. 教育実習を終えて

3週間の実習を通して、授業、ホームルーム、部活動、行事など、さまざまな体験をさせていただきました。そこでは先生方が常に生徒のことを第一に考え、準備をしたり、指導を行ったりしている姿を見ました。学級担当でお世話になった先生が、「学校にいる間はできる限り生徒と関わる時間を長く取るように意識している」と仰っていたのがとても印象に残っています。授業や部活動、生徒指導など、多くの業務を行いながら、生徒のことを第一に考えて行動できることが、教師として生徒の前に立ち続ける上で、信頼関係を築ける鍵なのだと感じました。3週間という短い期間では関係を築き上げるまでいくのは難しいですが、是非コミュニケーションを大切に過ごしてもらえれば、良い教育実習になると思います。

4. おわりに

教育実習の3週間はあっという間に過ぎます。その短い期間の中で、どれだけ経験をえられるかは、自分自身が実習先でどのように行動するかが重要であると感じています。私自身大変なことも多く、心が折れそうになる時もありましたが、多くの生徒と出会い、実習期間でしかできない経験を通して、最終的には楽しかったと思える3週間を過ごすことができました。

これから実習に行く皆さんは、失敗したらどうしようと不安になる人もいるかもしれませんが、実習生は失敗しても責められることはありません。それよりも次の授業でどうしていくかを考え、行動することが大切です。教育実習を楽しんで、素敵な期間になることを願っています。

教育実習を終えて（社会）

川越市立霞ヶ関西中学校 経済学部経済学科4年 橋内 隆慧

はじめに

私は、母校の川越市立霞ヶ関西中学校で、2022年5月9日(月)から27日(金)の3週間、教育実習をさせていただきました。この時期は、中間テストや体育祭がある中学校が多く、試験のための勉強会や、体育祭練習など、さまざまな場面で生徒と接する機会がありました。私は2年生のホームルームと歴史の授業を担当しました。3週間という本当に短い期間ですが、教員という職業のやりがい、大変さなど、さまざまなことを学ぶことができました。

教科指導

私は、歴史（江戸幕府の成立と対外政策）の授業を行いました。授業プリントと、スライドを中心に授業を進め、場合によっては、生徒1人に1台貸与されているクロームブックを使用しました。

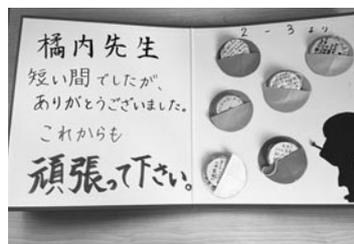
私が教科指導で学んだことは、大きく3つです。

1つ目は、「本時の課題」を明確にし、それに沿った授業づくりをすることです。授業をつくる際、生徒にわかりやすい授業、楽しい授業をつくりたいと思うあまり、課題（めあて）を見失ってしまい、何が伝えたかったのかわからない授業になってしまうことがあります。授業作成の際は、まず課題（めあて）と、どのように終わりたいか、この授業で何が1番重要なのかを最初に明確にし、それに沿った授業を作成することが大切だと思います。

2つ目は、教材研究の大切さです。これは私がやっておいてよかったという体験です。私は実習前の打ち合わせの時に、授業をする範囲を教えていただいたので、実習までの期間、ある程度の授業プリントをつくり、教材研究を進めていました。私は歴史が好きということもあり、人物の特徴や生き様、事件が起こった背景、その他豆知識のようなものを、自分が作ったプリントに、余白がなくなるくらい書き込みました。教科書に書いてあることを頭に入れることは当然として、それ以上の知識を身につけておくことで、生徒の興味を引き付けることや、質問に答えることができ、自分に余裕ができます。しかし、これはあくまでも予備の知識なので、時間や生徒の表情をみて適材適所で使うことで効果が

あると思います。

3つ目は、言葉の選び方です。研究授業の後の会議で校長先生からご指摘いただいたことです。授業の中で「鎖国のイメージを5分で入力してください」という時間をとりました。その時、私は授業の進行上「キリスト教の禁止」というワードが出てきてほしかったため、3分くらいたった時点で「ヒントは～」と言い、ヒントを出してしまいました。しかし、イメージと言うなら正解はなく、ヒントがあるなら正解はあります。ここでは問いの仕方を工夫するか、ヒントという言葉を使うべきではありませんでした。生徒は教師の言葉使いや言葉選びに敏感で、影響も受けます。適切な言葉を使い、選ぶことが大切だと学びました。



生徒からもらったメッセージ

ICTの活用

ICTを活用するときの1番のネックは時間の制約だと思います。中学校では50分、場合によっては45分授業になる中、効果的にICTを使うにはいくつか工夫が必要です。

ICTは、授業の重要部分（まとめに直接つながる）で、生徒全員に考えてほしい時にのみ使いました。そこではグーグルスプレッドシートやジャムボードを使い、生徒が入力したことがリアルタイムで電子黒板に投影できるようにしました。ですから、検索をさせたり、個別に動画を視聴させることはしませんでした。

実習だからとりあえずICTを使おうという考えでは、自分のためにも生徒のためにもなりません。よりICTが力を発揮する方法をぜひ考えてみてください。

おわりに

3週間という短い期間の中でも、先生方と生徒たちに助けられた場面が数えきれないほどありました。これから実習にいく方は、不安や緊張があると思いますが、たくさん質問をし、たくさん話しかけることで、自然と緊張が解けるとと思います。陰ながら応援しています。

教育実習を終えて（商業）

東京都立王子総合高等学校 商学部マーケティング学科4年 屋宜 由布奈

1. はじめに

私は、5月30日から6月17日までの3週間、母校である東京都立王子総合高等学校にて、教育実習を行ってまいりました。ホームルームは3年1組、授業は2年生の選択科目である「簿記α」1クラス分を担当しました。ホームルームは39人のクラスで、簿記αの授業は20人程のクラスでした。実習期間中は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、職員、生徒、実習生全員がマスクを着用し毎日検温、アルコール消毒を実施して、生徒は昼食の時間を黙食で過ごしていました。また、実習1週目の金曜日に体育祭が行われたのですが、東京都の方針により学年ごとに時間をずらしての開催となりました。通常の体育祭とは異なる形式でしたが、生徒も精一杯取り組んでいる様子で私も嬉しく思いました。

2. 教科指導について

私が教科指導から学んだことは、授業内においても生徒とのコミュニケーションが必要だということです。これには、生徒の机を回る机間巡視や的確な指示をすることなどが含まれます。私は、1回目の教壇実習で自分の授業に自信がなくなってしまい、生徒と積極的にかかわることができませんでした。教科担当の先生と振り返りをした際に、自分が作った授業には自信を持つべきだと言われ、その上で、机間巡視を積極的に行うことが必要だと教わりました。それのおかげで、2回目以降は机間巡視のコツを徐々につかめるようになりました。机間巡視では、生徒の手元を観察し必要に応じて声をかけることが大切だと学びました。手が動いている生徒は、理解していると思われるので少し観察してそのままにします。反対に手が止まっている生徒は、理解していない、あるいは集中力が切れているなど見受けられます。そのような生徒には、一言目に「わかる？」などといった言葉をかけ、返答に応じてコミュニケーション

ンを取っていきます。何周か回って進みが早い生徒には「早いね、もう理解できた？」と褒めることも必要です。生徒によって理解度や進捗度はそれぞれですが、どんな生徒も見逃さず、気にかけているということを伝えることも机間巡視の役割だと感じました。

しかし、私は年間を通して行われる授業の途中から担当したため、すべての生徒が前回までの内容をどの程度理解、記憶しているのか、どの生徒が得意あるいは不得意なのかなどは、授業内だけでは分かり切れません。それを知るためには、最初から最後まで授業を担当するか、実習中なら授業外ですべての生徒と話す必要があると考えます。私は、知らないまま授業を実施したため、全員に同じ授業を展開することに難しさを感じました。

そして、もう1つの的確な指示ですが、高校生には板書や時間の指示など、何かをさせるときにははっきりと示すことが必要です。最適なものを自分で判断することに慣れていない生徒にとって、曖昧な指示は迷いを生んでしまいます。例えば、作業中に補足説明をするとなった場合、「手を止めて注目して」という指示をするといったことが挙げられます。私は曖昧な指示が多くなってしまったので、生徒を困らせてしまったと反省しています。

3. おわりに

私が教科指導から学んだことは上記に述べたことの他にも数えきれないくらいありました。教材研究や授業準備には多くの時間を費やす必要があることや、生徒を巻き込み、楽しんで取り組んでもらうための授業展開を考えることが重要だと学びました。また、現場の先生は、生徒に主体性を育ませる授業を行っていて関心を抱きました。そのおかげで、何事も主体的に取り組む生徒が何人かいて、授業も生徒の成長に影響するのだと学びました。最後に、お世話になった先生や生徒に感謝したいです。

教育実習を終えて（数学）

長野県野沢北高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 岡村 帆乃

1. はじめに

私は5月9日から5月27日までの3週間、母校である長野県野沢北高等学校で教育実習をさせて頂いた。HRでは1年3組を担当し、教壇実習では1年生2クラス、2年生1クラスを担当した。HRや授業以外でも、常に先生方や生徒、教育実習生からたくさんの経験や学びを得た。ここでは、私が教育実習を通じて得たことや感じたことをまとめる。

2. 教科指導について

教育実習に行く前、私はイメージで実習1週目は授業見学をし、2週目から教壇実習が始まるのだと考えていた。しかし、教科担当の先生は、授業の経験をたくさんした方がいいという考えの方だったため、2日目から教壇実習を行なった。3年生のうちに教育実習に行った4年生の話聞く機会が何度かあると思うが、教育実習の流れは学校ごと違う。もっと言えば、同じ学校の同じ年の教育実習生でも、担当して下さる先生によって全然違う。そのため、どのような状況でも対応できる柔軟性が必要であると感じた。これは、教育実習に限ったことではなく、教師という職業は、急な対応や個人に合わせた対応を常にしている、柔軟性が求められる職業だと考える。教育実習でも柔軟かつ積極的に行動することがとても大切だと感じた。

教育実習中、教科担当をして下さった先生に何度もご教授頂いた言葉がある。

「授業見学も準備も大事。だけど、結局は授業が全て。何もかも授業のためにあることを忘れてはいけない。生徒は授業の部分しか見えない。」

当たり前なことだと思う。しかし、教育実習中、指導案に追われると、ついつい「準備を頑張ろう」「準備に時間割かない」という気持ちになってしまう。私自身、そういう気持ちになってしまう時もあった。もちろん、準備を十分にしないでいいということではない。準備を十分にした上で、全て授業のためにあることを忘れてはいけないということだ。

この言葉を最初聞いた時、当たり前という気持ちとともに、教師は努力を見られず、結果だけを見られる職業なのかと感じた。しかし、実際に授業をやると、準備と授業が伴った授業では、生徒が理解してくれるシーンや、生徒に直接わかりやすかったですと言わ

れることもある。なので、教師という職業は努力が見えづらいようだが、生徒の反応から見える職業だと感じた。そして、間接的に努力が見えた時には、普通よりも嬉しいものだった。

3. 教育実習を終えて

3週間という期間で授業のことはもちろん、授業以外で先生がやらなければいけない仕事や、先生間での人間関係の難しさなど、本当に色々なことを学ぶことができた。教育実習に行く前は、正直不安な気持ちがいっぱい憂鬱だ感じていた。しかし、3週を終えた今、先生や生徒、教育実習生に恵まれ、とても充実した教育実習となった。とにかく野沢北高校の空気感がよく、いろいろな人に支えてもらった3週間だった。これには、先生の在り方が深く関係していると考えた。教師という職業は想像以上に大変な職業だと思う。3週間の教育実習でさえとても大変だった。しかしそんな中でも、先生は辛い顔や疲れた顔をせずにいる。教育実習生のことも気をかけてくれ、職場で気が合わない人がいてもそんなことは表に出さない。そういった先生の日頃の努力から学校全体に余裕が生まれ、生徒にも伝わって雰囲気良くなるのではないかと考えた。そういった毎日の行動が学校全体に関わるのが教師という職業なのだと感じた。

4. おわりに

3週間の教育実習は、学べることが多い分、辛いことや大変なこともあった。しかし、積極的に学ぼうとすれば、一生懸命取り組もうとすれば、先生も助けてくれるし、生徒も応えてくれた。先生の在り方が学校の雰囲気を形作るように、教育実習生の在り方次第で、それに応えてくれる。知らない環境に3週間行くのは怖いことだが、わからないものを恐れるよりも、割り切って自分の考えや態度を変えることの方が簡単だし大切なことだと思う。



最後のHRでのレクリエーションにて

はじめに

今年度も新型コロナウイルスの影響により、実際に介護等体験を行うことができなかった。そのため、代替措置として資料等の教材を用いて学習を行った。今回はそこから学んだことや気づいたことを記述していく。レポート作成の形態としては、聴覚障害もしくは視覚障害のどちらかを選択して、作業を行う。私は聴覚障害を選択したため、聴覚障害ベースで記述していく。



1. 聴覚障害の教育課程と指導法について

教材を読み込んでいくとたくさんのことを学ぶことができた。今回はその中でも特に重要だと感じた学びについて紹介していく。それは、私自身が興味関心のあったトピックである聴覚障害の歴史についてだ。歴史を学ぶことで先人たちが残した功績を、効率的に知ることができる。これにより、生徒に対して最も効果的な行動や言動をすることが可能となるのだ。歴史を学んでいく中で特にためになったと感じることは、考え方や配慮の多様性だ。具体例として、コミュニケーション手段の配慮を紹介する。これは大まかに「トータルコミュニケーション」と「バイリンガル・アプローチ」に分類される。前者は、身振り手振りや手話などのあらゆる方法でコミュニケーションを取ろうとすることを意味している。後者は、第一言語として手話、第二言語として音声言語の指導を行う方法だ。このように今まで知り得なかった情報を知ること、教師として効果的な関り方を模索することができるのだ。

2. 気づき

聴覚障害について学んでいく中で、教師が最も大切な役割を担っていると感じた。それ

は学校での配慮や支援を実行する上で、教師が持っている手段や情報量によって質が変化するからだ。そのため教員はその役割を理解し、最も生徒に寄り添い、かつ効果的な手法を取らなくてはならない。今回は、そのための勉強ができてとても良かったと思う。私が親であるなら信頼があり理解のある教員に子供を任せたい。そのため、準備をしっかりとしなくてはならないと改めて感じた。

また、生徒は将来的に社会に出ていくため、実際の社会組織を活用した授業を行うことも重要だと気づきがあった。これは、健聴者の多い社会に対して心理的安定性を持って所属ができるか等を知るために行う。特に先輩として社会に出た人との関わりができると現実社会との整合性を調節できるため良いと考える。他にも学校や専門施設を活用し、自身の障害について理解を深める「障害認識」も大切だと感じる。これは社会に出て、どんな時に困難さを感じるか、他者の助けがどのような時にいるか等を把握するために行う。これらのように、様々な気づきを今回獲得することができた。

おわりに

テキスト等で学ぶことで知識が増え、授業に反映することができるようになったと感じる。だが正直な所、実践的な演習をしたいという気持ちが強い。そのため、ボランティア等の学んだことを発揮できるような場所を探し、さらに飛躍した状態に持っていきたいと思う。また今回重点的に学んでいない、視覚障害についても自主的に学ぶ必要がある。それは私達が教員になった時、生徒が多くのことを楽しめるように、できる限りの準備をしていかななくてはならないからだ。よって将来的な展望も含め、考えながら行動していきたいと思う。また、社会全体として障害者に対する理解と認識が足りていないように感じる。ぜひ来年度受講される皆さんには、しっかりと学び障害についての知見を増やしてほしいと思う。

1. はじめに

2020年から始まった大学生活はオンライン授業から始まり、気がつけば折り返し地点を過ぎていた。10月1日に開催された教職公開講座は、2020年から引き続き、今年もオンラインで行われた。今の教育現場と私が想像している学校現場とのギャップを知りたい。また、これからの人生に活かしたい。そのような思いで臨んだ。

2. 国語科の現場の話聞いて

初めに、学校現場の様子を専修大学OGの先生から拝聴した。まず、現行の学習指導要領では、読むこと等が重要視されているが、大学入試では依然として文法の知識が必要であるとのことだった。そのため、古典分野の取り扱いについて、品詞分解をして口語訳をしていくという流れを、どのようにして脱していくかが若手の教員に求められていると先生は仰っていた。

次に、主体的に学習に取り組む態度を何で評価するかが難しいと現場の先生は仰っていた。現場の高校では、学んでいく上でどのようなことを考えたかを書く振り返りシートを実施しているという。それを書けているが、テストの点数が低い生徒もいれば、振り返りを書けていないがテストの点数が高い生徒もいるため、難しいと仰っていた。

古典分野のICT教育については、現代とのつながりを感じさせることが大切だと分かった。例えば、『源氏物語』の垣間見の場面では、高校生にとって馴染みのある若者言葉を用いながらリライトしてみたり、『十訓抄』の「大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立」という和歌と、J-POPの歌詞との共通点や違いを探したりする活動を先生は挙げられていた。リライトすることで、生徒は主語の読み取りができるようになったと先生は仰っていた。古典を学ぶ意義の一つとして、現代の言葉や文化等のつながりを考える活動を、積極的に授業に取り入れたいと感じた。

また、生徒とコミュニケーションをとる際は、自分自身の経験の話をしつつ、共感することが大切だと仰っていた。共感が求められていることを改めて知った。

3. 現場の校長先生の話聞いて

算数は正解を求めるが、数学はものごとを考える学びであると現場の校長先生は仰っていた。そこで、考える学びである数学が作業化していることの例として、移項を挙げられていた。また、中学校では解き方を覚えるだけで終わってしまい、高校で理系が忌避されるのは、数学を咀嚼しきれていないためだと仰っていた。そこで、中学校では学ぶことの大切さや楽しさを伝え、高校では大学入試で記憶力が試されるため、分かることをどのように使い、伝えていくのかが重要であるとのことだった。また、連続する知識の関心を引く授業を作っていく必要があると仰っていた。そのような授業を作るには、教師が細部まで知識を関連させていることが必要だと考えた。それは、どの教科においても当てはまることだと感じた。

教師は何のために存在するのか。知識を伝達するだけなら、オンラインでも可能である。教師は、生徒の感情や問題に敏感である必要があると先生は仰っていた。また、専門外の課題には、同僚や外部の人と連携して対応するため、協調性が必要だと仰っていた。校長先生が、協調性とは仲間を受け止めながらキャッチボールができることと表現していたことが印象に残った。

4. おわりに

今回の教職公開講座では、生徒や学校の現状、求められる教師像について、情報を得ることができた。また、自己課題を見つけることができたと感じる。今回得た情報を参考に模擬授業を工夫し、試行錯誤しながら、生徒にとって学校が安心した場所となるよう、積極的に声を掛け、サポートしていきたい。

1. はじめに

私は昨年度から科目等履修生として復学し、教職課程を履修している。大学で学び直しをすることは有意義で、学習指導要領改訂の経緯、「令和の日本型学校教育」の考え方、ICT活用の背景などを理解することができた。すると自然と、教育現場で今まに行われている実践を知る必要があると考えようになった。



また、学び直しの中で手に取った一冊に、日高総長の著書『刑法総論』がある。刑法理論は勿論のこと、刑法学の土台となっている道徳・倫理そのものについて考える時間が増え、私たちの道徳観・倫理観はどこからきたのだろうか、という疑問が浮かぶようになった。

この度の専修大学教育学会設立70周年記念大会は、こうした私の要望と疑問に答えてくれるものだと考え出席した。

2. 道徳体系としての武士道

学会前半の日高総長の講演では、新渡戸稲造の『武士道』を細解くことで、現代日本の道徳意識の希薄化・倫理観の迷走の要因が探られた。それは私たちの価値基準の根底に存在する「道徳体系としての武士道」の揺らぎにある。明治維新により職業としての武士が消滅した後も、その日本人特有の価値項目は残り、一般人の道徳観にも深い影響を残していたという。その話から、私は現代にも受け継がれてきたものがあると考えた。例えば、武道の心得がない人であっても「礼に始まり礼に終わる」の精神はあらゆる場面で所作として身に付いている。また、サッカーワールドカップが開催されるたび、日本人がゴミを持ち帰る姿は海外では驚きと称賛をもって報じられている。

こうした私たちにとっては当たり前の価値項目は儒教、仏教、神道などに淵源があり、欧米のキリスト教一元的価値体系とは由来が異なる、多元的な価値項目を合一化してきた歴史の上に成立しているというわけである。したがって、グローバル化の波により、欧米のロゴスの世界ばかりが受け入れられると、その経験知がない私たちにとっては、道徳・倫理の修養が困難になるのは当然のことなのだろう。このように私たちのルーツを理解することは、これからの道徳・倫理の教育のあり方を模索するための第一歩なのだと考える。

3. 現職教員の実践と研究

学会後半は、小・中・高の現職教員3名が現場での実践や研究成果を発表された。長田先生からは、教員の資質能力向上に向け、メンター方式を採用した事例が紹介された。メンター方式とは、先輩教員が後輩教員に対して行う個別支援活動のことである。日々の肯定的な声掛けに留まらず、目標設定や内省の機会まで設けてあり、組織的な運営がなされていることが理解できた。良くないメンタリングとして、仕事のやり方を一方的に詰めることや、執拗に「なぜ？」を問い詰めることなどが挙げられ、私も自身の慢心を戒めようと気付くことができた。

武田先生は新学習指導要領に対応した自身の授業実践について解説された。なかでも私が取り入れたいものが「対話的な学び」に関する実践である。そこでは、その話し合いの前後で変容が生まれたのか、という点を重視しているとの話があった。それは単なる意見交換会ではなく、児童生徒が相互に考えを述べ、相互の考えを尊重し、納得解としての新しい考えを生み出しているのかという視点であろう。社会では方程式の存在しない多くの課題に直面する。ゆえにそうした場面でも、悩みながらも仲間と対応できる力を獲得する必要があるのだと考える。ここで教員の課題としては、新しい考えが生み出されたということや、適切な示唆をすることが必要なのだと思う。

岸本先生は若手教員ならではの視点で、仕事に取り組む心構えを熱弁された。印象的であった一言が、「教員にも多様性がある当たり前である」との言葉である。児童生徒に多様性があるように、教員にも様々な人がいる。バラエティーに富んだ教員が集まり、総合力としての学校や教育があるという考え方には自然と共感することができた。

4. 終わりに

コロナ禍を契機に、教育分野は急激な進化と適用を迫られてきた。しかし、考え方によっては、限界がきていたものが可視化されただけの可能性がある。本大会はそうした時代の教育のあり方を考えさせるとともに、道徳教育の基本に立ち返らせる刺激的な機会であった。



1. はじめに

教職実践演習とは、4年次後期に開講されている必修科目です。これまでの教職課程の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた学びが、教員として必要最低限備わっているかを最終的に確認するものです。その上で講義を通じて、自分にとっての課題を自覚しその後教員としての成長に繋げる位置づけにある科目です。

私は砂原由和先生が担当されている講義を履修しました。この講義のねらいは、学校教育が抱える様々な課題から諸学問の魅力といった広い範囲に着目することで、これまで学んだ教育に関する事柄を改めて振り返り、考え、向き合うことのできる基礎能力の育成を目指すことです。講義では、全部で3回のグループ発表を行いました。履修者4、5人のグループで、発表ごとにメンバーを代えています。グループディスカッションの時間を1コマ、グループ発表の時間を1コマ、そしてその際フィードバックを行い、次の発表に活かしていくという内容でした。

また校内での講義以外にも、教職公開講座や教育学会に参加することで、教育そのものに関する事を知り、さらなる関心を深めることができました。教職実践演習は、教職課程の総仕上げとして、これまでの学びを実践することで確認し、その後の教職生活に繋げることのできる科目であると思います。

2. 教職実践演習での成果と課題

私は教職実践演習の講義を履修して、改めて教職で求められることや自分の課題を知ることができました。講義では、ICTの導入によって変化している教育現場に関する現状と、それによる利点、課題点や、教職を履修することの意義、外部委託の進む部活動など様々な教育のテーマについて調べ学びました。これらは始めのICTに関するテーマを除き、グループでのディスカッションを通じて発表テーマと内容を決めました。そうしたことで、教職を目指す私たちが、教育に関して特に何に関心をもっていたのか、或いは何を知らなかったのか、といった現時点の自分の教育に対する理解を図ることのできる講義

であったと思います。

ICTの活用が進む教育現場に関するディスカッションを行った際、多くのICT教育活用の事例が挙がりました。そしてメリットとデメリットを、教育実習での実際の活用を踏まえて話し合うことで、改めて教職現場は大きく変化しており、その変化に対応することが求められているのだと感じました。無料動画サイトなどで気軽に視聴し、生徒自身で学ぶことが容易になっている現在では、いかに授業で生徒に教科への関心を持たせ深い学びに繋げられるかが重要だと思いました。またグループディスカッションを行ったことで、他者と意見を交換し協力しながら成し遂げることの大変さと大切さを実感しました。教育現場においても他の職員の方と協力することは必須であり、そうすることで生徒は勿論の事、教員にとってもより良い現場にしていくことができると感じました。

3. 最後に

教職実践演習の講義を通じて、教職に関する多くの事を学びました。それは講義内でのグループディスカッション、他のグループによる発表、砂原先生による経験談によって得られたものです。さらに教職公開講座や教育学会でも、教育に深く携わる先生方の講演を聴くことで、教員の大変さや役割を改めて実感しました。これまでに多くの学びを得ることができたのは、教職実践演習を含めた様々な先生方、同じく教職を志し履修していた人達のおかげです。特に先生自身の経験談や意見を聞くことで、教職の大変さを知ると同時に、そこには大きなやりがいがあるのだと強く感じました。今後もこれまでの教職課程を通じて得た知識や学びを胸に、精進していきたいです。



発表で用いた資料

2学期の始まりから約3ヶ月間、国語科の教科研修生として和洋九段女子中学校・高等学校の先生方にお世話になり、主に高校1年生の「現代の国語」、高校3年生の「現代文B」の授業見学をさせていただきました。教育実習前に、実際の学校現場の様子を知りたいという思いから、教科研修生に臨みましたが、毎回の授業で新たな発見があり、学びがありました。今回は、そのいくつかについてご報告させていただきます。

1つ目の学びは、それぞれのクラスにそれぞれの色があるということです。黙々と授業や課題に取り組む集中力の高いクラスもあります。授業内で発生する疑問点や発問に対し、指名するまでもなく自然と発言が飛び交うクラスもありました。先生方は、そのクラスの色に合わせて発問の仕方や授業スタイルを変えていらっしゃいます。これはもちろん一例に過ぎませんが、教員になるためには多くの場面で対応力が求められることを感じました。

2つ目の学びは、生徒が自らの頭で考える場面を多く作る必要があるということです。数年前の学校現場と大きく異なる点として、タブレットが導入されたことが挙げられます。授業内では多くの場面でタブレットが効果的に使われており、以前行われてきた非効率な場面などで多くの活躍が見られました。しかし、その一方で、分からなければすぐに調べるという行動が日常化しているためか、自分の考えを述べる際にもタブレットを使用し、インターネット内で拾った情報を自分のものにしていくという行動も見受けられました。すぐに答えが分かる環境で過ごしている高校生だからこそ、思考力が育つような機会を多く設け、自分で答えを導き出すことの喜びや楽しさを学ぶことの出来るような授業展開が必要であると感じました。

最後に3つ目の学びは、教師には、フットワークの軽さが重要であるということです。

以前、ある先生にも同じような言葉を頂いた経験があります。当時は、言葉上の理解にとどまっていたのですが、実際に学校現場に足を運ぶと、その意味をととてもよく理解しました。教員が、生徒を観察することの出来る場所は担当する教科の授業内だけではありません。給食の時間や昼休み、HR、登下校の時間など様々です。多くの時間を学校で過ごす生徒ですが、授業中に見せる顔は、その生徒のほんの一部にすぎず、より本来の生徒に近い姿を見ることが出来るのはまた別の時間がありました。授業見学をさせていただく中で様々な生徒と出会いましたが、授業中はとても静かだけれど、実は会話が大好きな生徒がいました。授業内では発言も多く活発な様子だけれど、実は将来のことで不安が尽きない生徒もいました。このように、実際に生徒と関わってみると、授業中とは異なる一面を持つ生徒ばかりでした。この姿をどれだけ見ることが出来るか、それは授業以外の時間でどれだけ生徒と関わっているかではないかと感じます。その姿を見るためには、やはり、空いている時間にどれだけ生徒の元へ足を運べるかではないでしょうか。教員にはこのようなフットワークの軽さが必要であり、それが教員の仕事ではないかと感じました。

今回参加させていただいた教科研修生の活動では、多くのことを感じ、学ぶことが出来た貴重な3ヶ月間となりました。教科研修生実施の間、関わっていただいた多くの方への感謝と学んだことを胸に刻み、今後も日々努力していきたいと思えます。



生徒の前で自己紹介

1. はじめに

私は令和4年7月から週に一度、川崎市立三田小学校で学校教育ボランティアとして活動しています。私が学校教育ボランティアを志望した理由は主に2つあり、ひとつは実践と経験を通して学校教育に対する理解を深め、大学での学びをより着実なものにしたいという思いを抱いたためです。もう一つの理由は、児童が学習における「分からない」ことを肯定的に捉え、前向きに学習に取り組むことができるようなサポートをしたいと考えたためです。こうした思いを胸に迎えた7月当初、これまで小学生と関わる機会があまり無かった私は少しの緊張と不安を抱えて教室に入りましたが、児童の元気な挨拶や笑顔がそれらを次第に解してくれました。

2. 活動内容

ボランティアの活動内容は、主に通常学級での授業補助及び個別にサポートを必要とする児童の支援・見守りです。毎週、当日の朝に支援に入るクラスを担当の先生から教えていただきます。その際、留意点等も併せて教えて頂けるため、毎週違うクラスに入っていますが安心して活動をしています。通常学級での学習補助は、算数や体育を担当することが多く、具体的には授業についていけない、又は集中することが苦手な児童のサポート、児童が怪我をしないように見守るといった活動が中心です。さまざまな理由で個別にサポートを必要とする児童については、国語や算数のプリントを一緒に解いたり図書館と一緒に読書をしたりと、児童の意思を尊重しながらその子の現状に適切な支援を先生方と相談しながら行っています。

3. 学校教育ボランティアを通じて

学校教育ボランティアの活動は日々学びで溢れていますが、今回はその中から2つの学びについて以下述べようと思います。

一つ目は、「待つ」ことの重要性です。ボランティアとして何かできることはないかと、活動当初はついつい「こうするとできる」とすぐにアドバイスをしてしまっていま

した。しかし、体育での技の練習や算数の立式などの場面で児童の様子をよくよく観てみると、自分の力あるいは友達と協力することできちんと解決・達成していることに気が付きました。もちろんアドバイスすることも時には必要だとは思いますが、児童の可能性が発揮されたり児童が成長したりする機会を保持するというのを念頭に置いておくことが重要であると活動を通じて考えるようになりました。

二つ目は、児童の立場に立って言語化することの重要性です。体育で背支持倒立の練習をしていた際、試行錯誤しているものの上手くできない児童に「先生！」とアドバイスを求められたので、児童の練習の様子を踏まえて「足を天井に向かって、ピンってまーっすぐ伸ばすと、もっと技が綺麗になるよ」と言うと、これまでよりも随分と上手に技をできるようになっていました。こうした経験から、時に児童と対話しながら児童の「分からない」がどこにあるのかを明らかにし、「分からない」を「分かりやすく」してあげることが児童の主体的な学び・成長につながるのだと思うようになりました。

4. おわりに

毎週、活動の最後に校長先生や担当の先生とその日の活動について振り返り、日々児童や現場の先生方から得られた学びや気づいた児童の様子をお伝えすると同時に、先生方からアドバイスをいただいています。そうした先生方とのお話を含む学校教育ボランティアとしての活動は、今後教師を志す私にとってそのすべてが貴重な経験・知識であり、7月当初にはおぼろげであった私にとっての「教師像」を明瞭なものへと発展させるものでありました。

学校教育ボランティアでの経験は、「教師になりたい」という思いが、より強固なものとなり得る貴重な機会です。教師を目指している方も現段階では迷っている方も、実際の教育現場に足を踏み入れることでさまざまな出会いをしてほしいと思います。

●はじめに

私は令和4年度から専修大学附属高等学校で地理歴史科教諭として勤務しております。この原稿を執筆している今、教員人生がスタートして約5か月が経とうとしていますが、大学を卒業してすぐに本校の教壇に立ち、「先生」という立場になった心境や率直な気持ち、教員として日頃意識して取り組んでいることなどについて触れてみようと思います。

●日々の活動

本校での授業では二年生の日本史Aと三年生の世界史B（受験世界史）を担当しています。

私自身、大学で西洋史（現代アメリカ史）を専攻していたことから、日本史の授業に関しては日々勉強しながら生徒に寄り添った理解度の高い授業とすべく勤めています。

一方で世界史については、生徒が受験生であることから入試問題で問われるポイントや頻出するテーマなどを厳選し、より深い理解につながる授業にすることを心がけています。

また、本校ではICT教育を積極的に導入し、生徒への情報端末（iPad）支給による情報化社会への適応力向上や各教室のプロジェクター設置などの設備の充実が図られています。そして、授業においても生徒が情報端末（iPad）を駆使していることから、ややもすると自身が一番ICTに疎いという危機感に苛まれることもあるので、授業担当者として常に新たな取り組みや指導方法を模索し、変化し続けていくことが何よりも大事であるということを実感しています。

校務分掌に関しては教務を担当しており、コマ割りや日直の作成業務、代行手配、そして定期試験における運営業務など多岐にわた



る仕事を諸先輩方からのアドバイスをいただきながらその任に務めています。

教員一年目ということもあり、何事も未経験がゆえにスケジュール感、授業の進捗管理など手探りの状態ですが、この一年目を今後の教員人生の礎となるよう日々の経験を吸収し、結果と失敗を検証しながら、半歩でも一歩でも前進するよう常に意識しながら取り組んでいます。

●授業を通して感じたこと

授業準備に費やした時間、深めた内容、教員自身の理解度、そして最適な指導方法の選択、これらの良し悪しは生徒の反応に顕著に表れます。生徒の反応は非常に素直です。面白くない、興味がないと初めから感じている生徒だけでなく、普段はしっかり聞いてくれる生徒でも、一つ手段や方法を間違えると授業の時間が「睡魔との闘い」の時間と化してしまいます。

特に地理歴史は他の科目に比べ、「暗記するもの」として認識されています。確かにその認識は間違いでなく、テストや評価の際には暗記というものが少なからず必要です。だからこそ、当初私は授業においてとにかく知識をつけさせるために、自分が深めた内容を素直に授業で表現していました。授業である以上、生徒はある程度耳を傾けてくれます。ですが実際に理解できているかどうかを試してみると残念な結果でした。そこで、生徒の反応一つ一つを見て、この問いの難易度は適切だったのか、授業全体の中での活動の時間は適切だったのかなどあらゆる反応を観ることに努め、初めて改善点がまざまざと浮かび上がってきました。

生徒がこの問いでどんな反応を示すのか、どのような疑問を持つのか、どういった感情を抱くのか、そこまでイメージして初めて生徒が主役の授業になるのだと思います。その日々の改善をしていくためには、日々生徒と対話をし些細な反応に気づくことが何よりも大事であると感じました。

教員には学び続ける姿勢が必要不可欠です。日々の授業、生活で生徒と関わることが何よりの学びの場であると思います。これからの日本の将来を担う生徒を育てる教員として、生徒が成長できる授業を目標に掲げ、学び続ける姿勢を貫いていきます。



図書館本館（生田キャンパス 9号館）

司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9号館）

「黒石図書館づくり市民の会の歩み」に寄せて

経営学部 教授 荻原 幸子

この夏、「黒石図書館づくり市民の会」の方々から、記念誌「黒石図書館づくり市民の会の歩み」を頂戴した。2000年3月に設立されたこの会は、創立22周年を迎えて目標を達成したことから解散を決め、区切りとして記念誌を作成したとのこと。目標達成…そう、2022年7月1日に黒石市立図書館が開館したのである！

私が「市民の会」の皆様とお目にかかったのは、いわゆる「図書館づくり住民団体」を対象としたヒアリング調査をしていた2015年12月のことであった。先行きが見えない中でも図書館設置に向けてひたすら活動を続けられている状況を、「丁寧に」「物静かに」語ってくださったことを覚えている。改めて当時の記録を見直すと、このような発言が記録されている。“図書館ができるまではと、あの手この手で活動をしていて、たった一つできればそれでいいのですが、それまでの道が遠いのかなという気もします。頑張らなければいけないなと思っています。”

さてこの記念誌は、会長の挨拶、市長と教育長の祝辞、会員や運営委員の方々の寄稿、「黒石市（黒石町）における図書館設立運動」、「黒石図書館づくり市民の会の歩み」、故人となられた方々の追想、会員名簿・会則・歴代役員名簿、編集後記、より構成される。

「黒石市（黒石町）における図書館設立運動」では、図書館設置に向けた事実経過が時系列に記されている。始まりは「昭和7年（1932年）3代目町長の中山泰秀氏が、図書館建設の必要性をあげる」である。その後、「図書館設置条例」の請願が議会で満場一致で採択されたこと（1968年）や、10万冊の蔵書を備える図書館の計画が策定（1993年）されるも財政再建優先のために白紙撤回（2005年）となったこと、そして2016年に市長による図書館建設の意向表明があったことなどが分かる。最後は「令和4年（2022年）7月1日黒石市立図書館開館」と記されるのみであるが、それまでの紆余曲折がずしりと響く。

その後に続く「黒石図書館づくり市民の会

の歩み」は、2000年以降の市民による活動の時系列の記録である。淡々と記された毎年の出来事を辿ると、会報の発行、講演会の開催、図書館見学会、教育委員会や市長・教育長との懇談会（意見交換会）、古本市による売上金の市（図書館建設基金）への寄付などが、まさしく「倦まず弛まず」実施されていたことがわかる。

こうした活動を担ってきた会員や運営委員の方々による寄稿では、たとえば次のように記されている。“発足から20年、紆余曲折も多々あり会長も現在で4代目となり、会員数も随分減り、先が見えず絶望的になった時も少なくなかったが、「図書館をつくりたい」との目的だけで、今まで頑張ってきたのである。今、夢が実現しようとしている。…どんな図書館が出来るか、本当に楽しみだ。…建物もどうなるのが楽しみだ。夢が夢でなくなることがあると思うと、ワクワクしてくる。” [p.8] “…先進図書館の見学や、講演会では専門家たちから学び、遠吠えに終わらないように「いつの日か」を夢見て活動を続けてきました。…今、重い扉が開き開館を心待ちにするばかりとなり、誰彼の優しい笑顔を思い浮かべて、一緒に喜んでいきます。” [p.9] 22年間という、生まれたばかりの赤ちゃんが成人して独り立ちするほどの歳月の活動であったことを心に留めて、記された喜びを深く理解したいと思う。

司書課程の授業は概ね、公共図書館が現在どのような状況にあり、これからどのように充実・発展させていくかということを中心としている。すなわち各自治体に公共図書館が「ある」ことが前提とされる。しかしながら、どの自治体においても、前の世代の人たちによるさまざまな尽力があって、図書館が「ある」のだということも、授業を通じて伝えていかなければならないと考えている。

黒石図書館づくり市民の会記念誌編集委員会
「黒石図書館づくり市民の会の歩み」
22周年記念誌」2022.7



「図書館は時が経つのを忘れさせてくれる」。ある図書館の利用者アンケートにこんな感想が寄せられているのを目にしたことがある。たしかに、図書館の静かな空間に身を置くと、慌ただしい日々を忘れさせてくれるのかもしれない。とはいえ、図書館をめぐるには、いろいろと新たな動きもあり、内部の静けさとは対照的な慌たじさがある。本稿では、ここ1年の図書館をめぐる最新トピックスをいくつか取り上げて紹介したい。

①「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」施行(2022年5月)

図書館においては、近年、「障害者サービス」への認識が高まりつつある。筆者の担当する「図書館サービス特論」(生田)の授業では、その背景等について詳しく説明しているが、その1つに法整備の進展がある。例えば、2016年4月には、図書館を含む行政機関等に障害者への合理的な配慮の提供を義務づけた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行された。また、2019年6月には、障害の有無に関わらずすべての国民が文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現を目指す「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)も施行された。

そして、2022年5月には、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」(障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法)が新たに施行された。この法律は、「全ての障害者が、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加するためには、その必要とする情報を十分に取得し及び利用し並びに円滑に意思疎通を図ることができることが極めて重要であることに鑑み」制定されたものである。今、これら法整備の進展を「障害者サービス」の充実にいかに生かしていけるかが各図書館に問われている。

②文部科学省が「子供の読書活動推進に関する有識者会議」設置(2022年6月)

文部科学省は5年ぶりに「子供の読書活動推進に関する有識者会議」を設置した。この会議では、国の次期「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(2023年度~2027年度)の策定に向けた論点整理等が行われている。

主な論点は、「発達段階や多様な特性に応じた読書習慣の形成」「読書とICTのベストミックス」「地方公共団体の推進体制」などである。会議の議事録は、文部科学省のウェブサイトに掲載されている。学校図書館や児童サービスの今が把握できるので、ぜひ参考にしてほしい。

③文部科学省が「1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」(事務連絡) 発出(2022年8月)

1人1台端末の整備によって学校図書館が活用されなくなるのではないかと危惧する声が聞かれる。そうしたなかで、文部科学省が両者の関連について示した初めての事務連絡を発出した。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して児童生徒の資質・能力を育成するために、紙の図書資料とICTを効果的に組み合わせ活用することや、公立図書館が導入する電子書籍貸出サービスを学校(1人1台端末)でも利用できるようにすることなどが示された。

本稿で紹介したトピックス以外にも、近年いろいろな動きがある。司書・司書教諭・学校司書課程の各授業のなかでも先生方から紹介があることと思うが、みなさん自身でも『図書館雑誌』(日本図書館協会)などを読んで、最新動向の把握に努めてほしい。これも学修の一環である。

図書館実習を終えて

千代田区立千代田図書館 文学部日本文学文化学科3年 大津 芽依

私は8月30日から9月12日にかけて、千代田区立千代田図書館で10日間の実習に参加させていただきました。千代田区立千代田図書館は千代田区役所の9階・10階にあり、千代田区立図書館の中央館です。ビジネス街であり、神田神保町の古書店街のすぐ近くにあるという立地を生かした企画や蔵書に特徴があります。

千代田図書館では、職員の方が総務・サービス・事業企画・読書振興といった組織に分かれており、さらにその中に児童サービス担当・障害者サービス担当といった細かい担当が分かれているという組織構成をとっています。実習においては、それぞれの担当の方から指導を受け、お話をうかがうことができました。

実習中には、カウンター業務や企画立案、資料の装備、選書会議など非常に幅広い業務を経験させていただきました。これらの実習で、特に印象に残ったことが2点あります。

1つは、利用者の方と関われることの魅力です。カウンターでの実習で、とある利用者の方から声をかけていただいたことがありました。まだ貸出・返却のシステムの操作に不慣れで、資料の提供に時間がかかってしまったのですが、その方が「ありがとう」と声をかけてくださり、とても励まされました。私が利用者の方と直接かかわったのは、カウンターでの実習の間だけでしたが、直接的には利用者さんに接触しない書架整理や資料の装備などについても、利用する方が見つけやすく、より長く使えるようにすることが常に意識されていることが分かりました。

2つ目は、知識を提供する場として図書館が収蔵すべき資料について、利用者の方が幅広い知識に触れられるような選書が必要だという意識についてです。実習の中では、選書に関わる選定会議への参加の他、おはなし会の模擬体験、WEB図書館での特集作成、学校図書館での企画立案と、何度か本を選ぶという体験をさせていただきました。その全てで、本を選ぶにあたって、自分が読むための本を選ぶのとは違う考え方が必要だと実感しました。また、選定会議では、職員の方が、館内に所蔵してある資料の性格や、千代田図書館や分館の強みを踏まえて購入するか否か

を決定しており、自分の働く図書館についての深い理解の上に選書が成り立っていることがよく分かりました。

図書館の性格という点では、昌平小学校の学校図書館での実習を一日行わせていただき、公共図書館と学校図書館の違いを肌で感じる機会もいただきました。昌平小学校の図書室は、千代田図書館の分館である昌平ましかど図書館と一体化した独特のシステムで、その一角を生徒専用の小学校図書室としています。

この昌平小学校図書室では、「食欲の秋」というテーマを設定して企画展示を行いました。「食」というテーマで本を探した時に、自分が小学生だったころによく読んでいた物語だけではなく、レシピ本や伝記、歴史・文化といった様々なジャンルで「食」を知ることができることに気付いて驚きました。

今回の実習を通して、図書館には利用者のために実に多くの資料が用意されていることをよく理解できました。また、それらの資料の選書・整備・管理・提供という全てにおいて、職員の方たちが、それを利用する人のことを思っているのだということも、10日の間で身をもって感じることができました。職員の方たちのお話をうかがう中で、どの方も仕事を楽しみ、誇りを持って従事していることに胸を打たれました。お忙しい時間を縫って、このような貴重な経験をさせてくださった千代田図書館の皆さまには感謝の気持ちが尽きません。今後の自分の進路を考えるにあたって、この経験を活かしていこうと思います。



図書の装備実習の様子

はじめに

私が図書館で働くことができているのは、ちょっとした偶然と幸運だったのではないかと思います。就職課前の棚で、たまたま川崎市職員の募集要項を見つけ、司書の募集はないけれど力試しのつもりで、と受験したことが今に繋がっているからです。採用当初は児童施設の勤務でしたが、その後図書館に異動することができました。取りあえずでも動いてみたことがよかったのかもしれない。



図書館での業務経験と館長の業務

川崎市には、各行政区に地区館と呼ばれる図書館が7館と、分館・閲覧所が6館あります。中央館はなく、中原区の中原図書館が中央館的な役割を担い、各館は区の特徴に沿った運営を行っています。地区館の業務の一部（貸出・返却カウンター、配架、資料の巡回処理業務など）は委託化していますが、利用者登録やレファレンスは、私たち職員がカウンターに入り対応しています。管理運営の体制は、自治体によってかなりの違いがあると思います。

私も、一般書や児童書の資料選定、他自治体図書館との相互貸借、障害者サービス、ボランティアとの協働など、担当としてある業務は一通り経験しました。講演会の企画・実施や川崎フロンターレとの連携事業等も、とてもやり甲斐のある楽しい業務でした。なかにはホームページからのご意見に回答するという、あまり楽しくない業務もありました。厳しいご意見には自分へ向けられたものでなくても、少々へこんだりしたものです。また、歳入を増やすため取り組んだ広告事業では、わからないことばかりでしたが、財政局など他部署のお世話になりながら何とか形にし、レシートへの広告の募集を行うことが出来ました。

どの仕事であっても、また図書館にも、表からは見えない業務がたくさんあります。気の進まないことでも、取り組んでみたら意外と面白いかもしれません。その経験は後に生きてくるのだと、今になって思います。

現在は館長という立場で館の統括を主な業務としています。館の目標の設定や、それを実現する職員の業務目標の進捗管理、人事に関すること、所管課や他部署との連絡調整、伺いの承認事務など、職員の時とは違った業務の日々です。時には、作業室に納品された資料を眺め、選定や発注をしていた頃を懐かしく思ったりしています。そしてカウンターに入って利用者への対応を行っている時が、やはり楽しく、今の癒しとなっています。

皆さんに伝えたいこと

皆さんも仕事をはじめたら、当初は目の前のことで精一杯になると思います。けれどもステップアップできる環境があるのなら、自分の強みを伸ばす努力をするとともに、その先どのような立場で働いていくのが、ということを考えてみてください。好きな事や慣れた事をずっと仕事にしていくのは楽しいですが、経験と年齢を重ねた後は、責任を担う立場を目指して欲しいと思います。実際の業務を知り、図書館の役割を理解している人が、その図書館の運営や管理について考え、決定できる立場にいるということがとても大切なことだからです。

さいごに

最近では、社会状況の変化や、利用者の価値観・ニーズも多様化し、図書館でもこれらの変化に対応していくことが求められています。川崎市では今後の10年を見据えた「図書館のあり方」を、令和2年度末に策定しました。そこでは「知と情報の拠点」を目指した3つの方向性が示されています。私はもうすべての「あり方」の実現に関わることは出来ませんが、今後の成果を見届けたいと思っています。そして、図書館で働きたいと考えている皆さんの意欲が、どこかの図書館で結実することを期待して応援しています。



黒門（平成 22 年復元・神田キャンパス）

学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2号館）

学芸員としての待遇とキャリア選択

(公財) たましん地域文化財団 歴史資料室 学芸員 山田 兼一郎 (令和元年度文学研究科歴史学専攻博士後期課程単位取得退学)

はじめに ここでは、筆者が正規学芸員として職を得るまでのキャリアを披歴する。率直に言えば、筆者の経歴は学芸員を目指す専大生に紹介するような誇るべきものではない。しかし、筆者は大学や博物館などで歴史学専門職のポストを得ようと必死にもがいてきた。その結果、昨今の博物館業界で問題視されている学芸員の不安定な待遇・キャリアに直面することとなった。もちろん、筆者が就職に苦労したのは時勢の影響のみならず、自身の力不足が本質にあることを自覚している。それでも、この「不格好な経歴」が、学芸員を目指す大学生にとって何かヒントになればと考えて筆を執った。

博物館で働くきっかけ 筆者は専修大学の学部・大学院(修士・博士後期課程)に在学、2019年度に単位取得退学したので、最終学歴は修士(歴史学)である。

そして、博士課程進学と同時に非正規学芸員として職を得て、現在まで通算7年3ヶ月にわたって博物館・資料室の学芸員・アーキビスト(事務職待遇で専門業務を担当した場合も含む)として勤務してきた。

年度	大学院	博物館等での職歴	その他の職歴
2011	修士1年		飲食店・大学でアルバイト
2012	修士2年		
2013	博士1年	①江東区芭蕉記念館	
2014	博士2年		
2015	博士3年		専修大学 任期制助手
2016	博士4年		
2017	休学		
2018	博士5年	②杉並区立郷土博物館分館	飲食店・大学でアルバイト
2019	休学	③国史館史資料室	
2020		④専修大学大学史資料室	
2021			
2022		⑤たましん地域文化財団 歴史資料室	

筆者は学部卒業後に学芸員課程の受講を開始した。最低2年間の修学で資格要件の単位取得が可能であり、構想では博士課程への進学と同時に学芸員資格を取得できると考えていた。しかし、博物館法の一部改定により、取得単位数が増加したことで、当初の目標を達成することができなかった。

それでも、運良く筆者は学芸員資格がない状態で博物館業務に就く機会を得た。このチャンスは学会運営でお世話になった他大学の先輩による紹介であった。いま振り返れば、ここで学芸業務に携われたからこそ、筆者は学芸員としてのキャリアを築くことができたのである。近年は非正規学芸員の採用

にあたって、博物館での業務経験が求められる。つまり、採用側は募集段階で複数年のキャリアを期待している。筆者は偶然にも「紹介」という恵まれたパターンでキャリアをスタートすることが出来た。具体的な待遇・キャリアは以下の通りである。

江東区芭蕉記念館の場合 区立の博物館類似施設、区ゆかりの俳人・松尾芭蕉を顕彰するために設立された記念館である。

雇用主	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団
勤務先	江東区芭蕉記念館
雇用形態	事務職員(非正規)
雇用期間	年度毎に更新、最長5年まで継続
勤務日数	月16日(月曜日休館・シフト制)
年収	200万円以下(賞与なし)

同館は指定管理者制度で運営されており、雇用主の財団は芭蕉記念館を含む区内の博物館類似施設、文化センター等の運営を委託されていた。財団職員はあくまでも事務職員であり、専門職の採用枠は存在しなかった。ただし、運営する博物館類似施設には大学院修了者など専門性をもつ職員を配置し、外向きには「学芸員」を名乗っていた。当時の上司2名は財団正規職、両名とも大学院修了者(日本近世史・民俗学)であった。

なお、財団が運営する博物館3館には筆者を含めて各館に1名ずつ院生・研究生という身分で専門職を目指す同世代の非正規職員が在籍していた。

杉並区立郷土博物館分館の場合 同館は自治体直営館である。しかし、同区に正規学芸員の採用枠はなく、郷土博物館や文化財係は非正規学芸員で運営されていた。当時は本館5名、分館3名の非正規学芸員を配置、管理職にあたる館長(係長級)や博物館・文化財係を所管する生涯学習推進課長、事務系職員は一般行政職という体制になっていた。

雇用主	杉並区
勤務先	教育委員会事務局 生涯学習推進課 郷土博物館分館
雇用形態	学芸員(非正規)
雇用期間	年度毎に更新、最長6年まで継続 任期終了後も再受験可
勤務日数	月16日(月曜日休館・シフト制)
年収	250万円以下(賞与なし)

当時在籍した学芸員の経歴は、大学院進学者が7名、学部卒(社会人経験あり)が1名となっていた。入職時の学芸員で現職の者は1名のみである。

国史館史資料室の場合 同室は学校法人国史館が運営する大学アーカイブズであり、大

学史資料の収集・保存、大学の歴史を紹介する展示室の企画・運営も担っていた。

雇用主	学校法人 国士館
勤務先	国士館史資料室（世田谷キャンパス）
雇用形態	専門員（非正規）
雇用期間	年度毎に更新、最長3年まで継続
勤務日数	週5日（月～金曜日）
年収	350万円以下（賞与あり）

同室には、大学の事務職員（正規）2名、「専門員」という肩書きで非正規職員2名が配置されていた。正規職員のうち1名が大学院修了者（日本近代史）であり、この上司と専門員が日々の専門業務を担当していた。

専修大学大学史資料室の場合 同室は学校法人専修大学の法人部署の一つであり、同大学の大学アーカイブズを担う部署である。

雇用主	学校法人 専修大学
勤務先	大学史資料室（神田キャンパス）
雇用形態	事務職員（非正規）
雇用期間	年度毎に更新、最長5年まで継続
勤務日数	週5.5日（月～金、土曜半日勤務はシフト制）
年収	550万円以下（賞与あり）

同室は大学事務職員2名（正規）、非正規職員として筆者が配置されていた。2名の正規職は大学院修了者（日本近世史）である。

以上のように博物館は資料の調査・収集・整理・保存など専門性が求められる業務にも関わらず、正規・専任の専門職ポストが少ない。この問題は図書館司書、公文書館専門員（アーキビスト）など、学芸員と類縁の専門職も同様の状況である。

キャリア選択の経緯 正直なところ筆者は「学芸員」を目指していたわけではない。大学院に進学した当初は自身の専門分野（日本古代史・庭園文化史）で研究職に就くことを目指していた。しかし、当然ながら研究職のポストは少ない。さらに筆者の力不足も否めず、研究職以外で専門職の道を模索した結果、学芸員としてのキャリアを歩むことになった。

筆者のキャリア選択で大きなウェイトを占めたのは「正規採用」「専門職（専任）」という点である。筆者が経験した各職場の雇用期限は、最短3年・最長6年であった。非正規職のままでは就活を繰り返す必要があり、そこには経済的・精神的な不安が伴う。さらに、研究面でも悪影響があり、腰を据えた調査・研究に取り組み難い状況にあった。

また、博物館類似施設・アーカイブズ機関において一般職・事務職での勤務を経て、財団（指定管理者）や大学から正規職採用され

るチャンスもあった。しかし、あくまでも一般・事務職員待遇ということで、人事異動や配置転換によって博物館（資料室）から離れる可能性があり、専門職を目指す筆者には大きな壁となった。

筆者は非正規時代、残念ながら雇用期間を満了したことがない。転職時の選択基準として、希望する職場の研究環境や専門性はもちろんだが、生活のため経済面（収入）を多分に考慮する必要があったからだ。さらに、雇用年限があるので、採用直後から転職活動を開始していたというのが実状である。本来ならば、少しでも長く一つの機関に留まることで体系的な知識や専門性を身に付けられるが、将来を考えると、日課のように求人情報をチェックする日々を過ごしていた。

年度	応募した機関・博物館	審査結果	
		一次	二次 or 最終
2013	(公財) 江東区文化コミュニティ財団	紹介	面接○
2016	墨田区立すみだ郷土文化資料館	書類○	試験+面接×
	大田区立郷土博物館	書類○	試験+面接×
	(公財) 練馬区文化振興協会	書類×	
2017	杉並区立郷土博物館	書類○	試験+面接○
	帝京大学総合博物館	書類○	試験+面接×
	(公財) 馬事文化財団	書類×	
2018	練馬区(文化財行政職・学芸員)	書類○	試験+面接×
	(公財) 新宿未来創造財団	書類○	試験+面接×
	(公財) 馬事文化財団	書類×	
	豊島区立郷土博物館	書類○	辞退
	成蹊学園史料館	書類○	試験+面接×
2019	国士館史資料室	書類○	面接○
	専修大学 大学史資料室	書類○	面接○
2020	大妻女子大学博物館	書類×	
2021	(公財) たましん地域文化財団	書類○	面接○

太字は正規職採用/斜体文字は公立博物館の指定管理者

さいごに 学芸員に限らず専門職のキャリアは多様化してきている。学芸員も文化財担当なのか、博物館勤務なのか。博物館の運営主体も行政・財団・企業・大学など様々であり、公務員として学芸業務を担当するのか、専門研究者と同等に研究を行う学芸員なのか。筆者は運良く正規職で専任学芸員に就けたわけだが、最初に志した専門研究の分野では職を得られていない（まだ志半ばである…）。

執筆前、創刊号からの『Passo a Passo』に目を通して見た。創刊開始から四半世紀を迎えていることに驚かされたと同時に、母校がたくさんの学芸員を博物館業界に輩出していることを再認識できた。多様化する学芸員像を前に学生の皆さんは自ら「理想の学芸員像」を構築する必要があるだろう。その一歩として母校の先輩学芸員のキャリアを紐解いてみるのはいかがだろうか。

私は6月22日から30日の期間に、長野県の辰野美術館で博物館実習を行いました。辰野美術館は、辰野町出身の芸術家の方々の作品など地域にゆかりのある作品を所蔵している町で唯一の美術館です。

本実習は美術館の展示替えの時期に行ったため、常設展の展示替えと次の時期に始まる特別展の準備作業の二つを主に行いました。特別展の内容は恐竜絵本作家である黒川みつひろ先生の「恐竜トリケラトプスシリーズ」の絵本原画展でした。

常設展の展示替えでは、掛け軸や絵画、焼き物などの展示作業を行いました。掛け軸の展示については博物館実習の授業で扱い方を学び、練習していたのでそれを活かして作業を行うことができました。授業で習ったことを実習で役立てることができ、自信につながりました。絵画や焼き物の展示ではデザインや色の配置に悩みました。そこで学芸員の方から「一つの展示スペースの間のバランスだけでなく、隣のスペースとのバランスを見て考えるといいよ」とのアドバイスをいただき、他のスペースのことまで考えることは私にとって新しい視点でした。何事も視野を広げて考えていくことが必要なのだと感じました。

特別展の準備作業では、原画の額装や展示、ジオラマの作成などを経験させていただきました。原画の額装では原画を丁寧に扱うことが求められ、ほこりが額の中に入ってしまうことに苦戦しましたが、回数を重ねるうちに静かに素早く作業することが大切だと気が付きました。自分の作業のやり方を工夫し改善することができたと感じています。額装



展示の様子②

した作品の展示では、水平器という機械を使って作品同士の位置を揃えたり、床と水平になるように合わせたりする作業を行いました。自分が展示を見ている側だと作品同士の間隔や位置がそろっていることを当たり前だと思ってしまうがちですが、裏側の努力の上で綺麗な展示ができ上がっているのだと知ることができました。また、ジオラマの作成はほとんどの作業を実習に来た学生のみで行いました。恐竜のフィギュアや木々などを展示する際には子供を対象とするということを踏まえ、前から見た時に見えなくなる部分が無いかや時系列が分かりやすいかなどを子供の目線になって考えることができました。実習最終日には特別展開催前の最終チェックのため絵本作者の黒川先生ご本人が足を運んでくださり、作者の視点で確認をしていただけるととても驚きました。先生からの助言を受け、納得のいく展示を一緒に作っていただくことができた貴重な経験をさせていただきました。さらに、今回の特別展は辰野美術館の学芸員の方と絵本作者の黒川先生が知り合いだったこともあり実現した展示会だと伺い、学芸員には展示の技術や知識だけでなく、人脈や人望までも大切な要素なのだと感じました。

今回の実習では学芸員や事務の方々が行っている展示作業を自分の手で沢山経験させていただきました。椅子に座って話を聞いて学ぶのではなく、頭を働かせ体を動かして学ぶことで、自分がどう行動するべきか周りを見て判断する力が身についたと感じています。この経験を活かし、学芸員資格取得に向けてこれからも励んでいきたいです。



展示の様子①

私は8月5日から7日と9日、10日の5日間、兵庫県姫路市にある姫路文学館で実習を行いました。姫路文学館は市制100周年事業の一環として建てられ、主に播磨ゆかりの作品や作者の資料を保管・収集・展示している文学館です。

私は日本文学文化学科に所属し、姫路城にまつわる伝説である刑部伝説について研究しているため、姫路文学館を選びました。私を含め12人の実習生と多岐にわたる業務を体験し、瞬く間に実習期間が過ぎ、充実した5日間でした。イベントの補助や収蔵庫の整理、資料の取り扱い方、企画展の構想・発表など実習では多くの事を行いました。今回はその中で印象に残った3つの業務について紹介します。

1つ目は、「世界に一つの絵本づくり」のイベントの補助です。子供向けのワークショップで、文学館ならではのイベントと思いました。イベントのための準備も手伝い、子供たちが楽しめるようにと工夫されている点が印象に残りました。私は受付を担当したのち、絵本作りの補助を行いました。学芸員課程で、博物館や美術館、文学館などは生涯学習の場だと学びましたが、実際に子供たちと触れ合うことで、より理解でき、場面に合った気配りの大切さに気付きました。

2つ目は、掛け軸と巻子の取り扱い方です。取り扱う前に、資料を汗などで傷つけないように、手を丁寧に洗うよう指示がありました。資料を取り扱う現在に気を配ることはもちろん、取り扱った後にも傷つけないよう気を付けるという資料の保存を実感しました。使用した資料は高浜虚子の俳句と棟方志功の倭画「灼明聖御不動」の掛け軸、「播磨国風土記」のレプリカと坂本龍馬が乙女さん宛てに送った書簡の巻子のレプリカでした。掛け軸は開くときに紙に負担がかかって破れないようにすることや、うっかりで掛け軸に頭がぶつからないようにすることなどを、注意点として学びました。巻子も破れないようにすること

や、箱から取り出す前に取りにくいからと無理に行わないことなどの説明を受けました。



坂本龍馬が姉乙女さんに宛てた書簡の巻子

どちらも初めて経験したため緊張しましたが、達成感を感じるとともに、学芸員の業務を行えたという嬉しさを感じられました。

3つ目は、企画展立案の発表です。最終日の10日に行い、それぞれが姫路文学館でどのような展示を行いたいのかという発表を行いました。展示の題名はもちろん、チラシの文章や展示の目的、具体的な展示物、ガラスケースや壁面ケース、空間をどのように使用するのかということも考え、発表を行いました。学芸員の方に予算は考えなくてよいが、あまり空想的になりすぎないようにと説明を受けていたの



最終日、企画展の発表を行う筆者

で、予算は考えないで行いましたが、現実に向き合って構想することは難しかったです。こんな資料があったら展示したいという資料があっても、どこにあるのか、もしくはどこにもないのかということが問題になります。学芸員の方に質問したところ、資料の有無も気になるが、運よく資料があったとしてもほかの館が使用していたり、日程が合わなかったりすると借りることが出来ないことがあるそうです。そのほかにも様々な理由で思っていた資料を使用できないことも多く、200~300の資料を考えて、そのうち半分ほどの資料しか使えないということはよくあるとおっしゃっていました。展示の発表では他の実習生が和歌、文学者、妖怪、お祭りなど様々な展示の発表をされ、学びとなりました。キャプションに注視した方もいれば、空間作りにこだわっていた方もいました。私は、姫路城に伝わる刑部伝説について展示を考えました。苦戦しましたが、学芸員の方に相談に乗っていただき、自分の思う展示を発表できました。

博物館実習を通して、私は座学で学んだことを実際にどのように行っているのかを多く学びました。そして、学芸員の業務は多岐に渡り多忙ですが、資料を守り研究し、伝えていく学芸員という職業は魅力的だと実感しました。そして、この実習は自分の将来や目標を決める経験となりました。また、この文章が少しでも次年度以降に博物館実習に取り組む方の参考になればと思います。

第2回学芸員課程セミナーに参加し、幕田淳子先生と國見徹先生のお話を拝聴し、考えたことは二点ある。

第一には、地域社会における学芸員と地域住民のコミュニケーションにより、新たな活動の可能性が見つかるということである。幕田先生のお話の中で、縄文時代の遺跡の発掘調査を行った際、関心を持った小学生が発掘のことを学校新聞に取り上げ、現場での解説、さらに出張授業に繋がったということを知った。これは、発掘調査の行程で予定されていたものではなく、地域の人達とのコミュニケーションを通して持ち上がった予期せぬイベントである。このような、仕事の中で出会った人達の関心を逃さず、臨機応変に教育の機会をつくるという体験は、学芸員課程や博物館実習ではあまり学ぶことができない「リアル」な体験であると思う。

また、地域博物館では、所在する地域社会の人々との対話によって、より充実した、様々な可能性のある活動ができると思った。さらに、地域社会の人々との対話を通して、地域の歴史、文化、自然など様々なことを学芸員と住民と一緒に学んでいくことができると思った。質疑応答の時間では、幕田先生から、必ずしも文化財に対する理解が得られているわけではないというお話をいただいた。この点は、博物館や学芸員だけではない、大きな問題・課題であると思うが、地域の人達とのコミュニケーションの中で、文化財理解の深化や、文化財のあり方について考えることができると思う。地域社会の中で生きる地域博物館になることで、地域外からの来館者に様々な情報を伝え知ってもらうことにもつながると思う。

博物館の学芸員と館外の人達とのコミュニケーションは、新たな活動の可能性をひろげ、これからの博物館のあり方を考えていくことにもつながると考えた。

第二には、博物館について現在の展示内容や来館者に対する活動だけでなく、館の設立の歴史的背景や事情、運営方法について知る



幕田淳子先生

ことが、学芸員として必要なことだと思った。國見先生のお話では、大磯町郷土資料館の設立の歴史的背景や現在の運営について詳しく伺うことができた。博物館実習を除く学芸員課程の講義では、一つの博物館の設立背景や運営について詳しく学ぶ機会が少ない。だが、今回の國見先生のお話を伺って、学芸員の目線で博物館を見る時には、館自体の歴史や運営にも注目することで、現在の展示や活動についてより理解することができるとわかった。とくに、大磯町郷土資料館の建物が元々この地にあった三井家の別荘の外観をモチーフにしたものであること、吉田茂郎が別館となっていることは、地域の中で生きる博物館の一つのあり方を示すものであると思う。

そして、國見先生のお話では、現在の博物館の運営や組織についても詳しくお話を伺ったが、博物館の運営はそれぞれの館で個性があり、それが学芸員の活動の個性ともリンクしていると思った。今回、幕田先生と國見先生のお話を伺い、これまで講義で学んだことや実習で知ったことを思い出し、学芸員といっても、その活動のあり方には個性があることを再確認した。

以上の二点が、今回のセミナーを聴講して考えたことである。また、幕田先生から学芸員の仕事では専門以外のことも扱うこと、國見先生から専門性を持つことと広く浅く柔軟性をもつことが重要だということを知った。講師のお二人のお話を聴いている中で、専門にされていること以外にも様々な分野のお話をされていたのが印象に残った。このような点は、学芸員課程の講義でも何回か伺ったことであり、学芸員の仕事において共通する点であると思われる。



展示実習室の公開



國見徹先生

データ編



2号館3号館（奥）（生田キャンパス）

令和4年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和4年5月1日 現在

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	13	13
		現 代 経 済	8	8	13	—	29
		生 活 環 境 経 済	15	11	6	—	32
		国 際 経 済	7	9	8	0	24
	法	法 律	25	18	14	16	73
		政 治	13	11	8	4	36
	経 営	経 営	16	4	8	9	37
		マ ー ケ テ ィ ン グ	8	19	6	9	42
	商	会 計	2	3	3	0	8
		日 本 語	—	—	—	14	14
	文	日 本 文 学 文 化	19	19	20	7	65
		英 語 英 米 文	33	26	12	10	81
		哲 学	11	6	9	7	33
		歴 史	42	44	26	20	132
		環 境 地 理	7	8	6	6	27
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	19	21	15	2	57
人 間 科	心 理 学	3	2	4	0	9	
	社 会 学	16	15	6	2	39	
国際コミュニケーション	日 本 語	9	19	17	—	45	
小 計	計	253	243	181	119	796	
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	3	3
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	1	1
小 計	計	—	—	—	4	4	
合 計	目 等 履 修 計 生	253	243	181	123	800	
大 学 院 生	生	—	—	—	—	8	
総 計	合 計	253	243	181	123	810	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。
 2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	1	1
		現 代 経 済	0	0	2	—	2
		生 活 環 境 経 済	0	1	1	—	2
		国 際 経 済	1	0	0	1	2
	法	法 律	1	3	0	2	6
		政 治	0	1	2	0	3
	経 営	経 営	0	2	1	2	5
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	1	1	0	0	2
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	3	1	0	5
		会 計	0	0	0	1	1
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	20	20	21	8	69
		英 語 英 米 文	1	2	2	0	5
		哲 学	0	7	6	2	15
		歴 史	0	5	12	9	26
		環 境 地 理	0	2	1	0	3
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	5	7	6	7	25		
人 間 科	心 理 学	0	7	2	1	10	
	社 会 学	4	7	2	2	15	
国際コミュニケーション	日 本 語	2	6	4	—	12	
小 計	異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	0	0	0	—	0	
小 計	計	36	76	66	37	215	
二 部	経 済	経 済	—	—	—	1	1
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	1	1
小 計	計	—	—	—	2	2	
合 計	目 等 履 修 計 生	36	76	66	39	217	
大 学 院 生	生	—	—	—	—	1	
総 計	合 計	36	76	66	39	219	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	0	1	—	1
		生 活 環 境 経 済	1	1	0	—	2
		国 際 経 済	0	1	0	0	1
	法	法 律	0	1	0	0	1
		政 治	0	0	0	0	0
	経 営	経 営	0	0	1	0	1
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0	0
	商	会 計	0	0	1	0	1
		日 本 語	—	—	—	0	0
	文	日 本 文 学 文 化	0	11	5	5	21
		英 語 英 米 文	0	2	1	0	3
		哲 学	0	1	3	1	5
		歴 史	0	2	4	1	7
		環 境 地 理	0	1	0	0	1
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	1	1	0	2
人 間 科	心 理 学	0	1	1	0	2	
	社 会 学	0	5	0	1	6	
国際コミュニケーション	日 本 語	2	0	1	—	3	
小 計	計	3	27	19	8	57	
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
小 計	計	—	—	—	0	0	
合 計	目 等 履 修 計 生	3	27	19	8	57	
大 学 院 生	生	—	—	—	—	0	
総 計	合 計	3	27	19	8	57	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。
 2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

データ編 Passo a Passo

学校司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	0	1	—	1
		生 活 環 境 経 済	0	0	0	—	0
		国 際 経 済	0	1	0	0	1
	法	法 律	0	3	0	2	5
		政 治	0	0	1	0	1
	経 営	経 営	0	0	1	0	1
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0	0
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	0	7	10	3	20
		英 語 英 米 文	0	0	0	0	0
		哲 学	0	1	2	1	4
		歴 史	0	1	2	2	5
		環 境 地 理	0	1	1	0	2
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ジ ャ ー ナ リ ズ ム	0	3	3	2	8
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	1	1	0	2
		心 理 学	0	1	2	0	3
人 間 科	社 会	0	4	1	1	6	
	日 本 語	1	3	2	—	6	
国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	日 本 語	1	3	2	—	6	
	異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	0	0	0	—	0	
小 計		1	26	27	11	65	
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		法 律	—	—	—	1	1
	法 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	1	1
		小 計	—	—	—	2	2
合 計		1	26	27	13	67	
科 目 等 履 修 生		—	—	—	—	4	
大 学 院 生		—	—	—	—	0	
総 計		1	26	27	13	71	

1 4年次には、5年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	1	1
		現 代 経 済	0	0	0	—	0
		生 活 環 境 経 済	0	2	0	—	2
		国 際 経 済	0	0	4	0	4
	法	法 律	0	3	1	0	4
		政 治	0	1	0	0	1
	経 営	経 営	1	0	0	0	1
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	0	0	1
		会 計	0	0	1	0	1
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	9	6	6	2	23
		英 語 英 米 文	2	0	0	0	2
		哲 学	3	7	0	0	10
		歴 史	26	20	28	1	75
		環 境 地 理	2	1	3	0	6
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ジ ャ ー ナ リ ズ ム	6	3	1	3	13
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	0	0	0
		心 理 学	0	0	1	0	1
人 間 科	社 会	3	4	2	0	9	
	日 本 語	0	1	0	—	1	
国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	日 本 語	0	1	0	—	1	
	異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	0	2	0	—	2	
小 計		52	51	47	7	157	
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		法 律	—	—	—	0	0
	法 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
		小 計	—	—	—	0	0
合 計		52	51	47	7	157	
科 目 等 履 修 生		—	—	—	—	1	
大 学 院 生		—	—	—	—	1	
総 計		52	51	47	7	159	

1 4年次には、5年次以上も含む。

令和 4 年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中学 1 種		高校 1 種		中学専修		高校専修		合 計	
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数		
一 部	経 済	経 済	12	社 会	11	地 理 史 10 公 民 11 商 業 0	—	—	—	—	—	32	
		国 際 経 済	0	社 会	0	地 理 史 0 公 民 0 商 業 0	—	—	—	—	—	0	
	法	法 律	15	社 会	9	地 理 史 14 公 民 13	—	—	—	—	—	36	
		政 治	4	社 会	2	地 理 史 4 公 民 3	—	—	—	—	—	9	
	経 営	経 営	7	社 会	4	公 民 6 商 業 2 情 報 1	—	—	—	—	—	13	
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	8	社 会	4	地 理 史 0 公 民 3 商 業 3 情 報 3	—	—	—	—	—	13	
		会 計	0	—	—	商 業 0	—	—	—	—	—	0	
	文	日 本 語	11	国 語	9	国 語 11	—	—	—	—	—	20	
		日 本 文 学 文 化	7	国 語	2	国 語 7 書 道 0	—	—	—	—	—	9	
		英 語 英 米 文	8	外 国 語 (英 語)	8	外 国 語 (英 語) 8	—	—	—	—	—	16	
		哲 学	5	社 会	3	地 理 史 4 公 民 4	—	—	—	—	—	11	
		歴 史	18	社 会	14	地 理 史 17 公 民 11	—	—	—	—	—	42	
		環 境 地 理	6	社 会	5	地 理 史 6 公 民 5	—	—	—	—	—	16	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ス ム	0	社 会	0	地 理 史 0 公 民 0	—	—	—	—	—	0	
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	2	数 学	2	数 学 2 情 報 1	—	—	—	—	—	5	
	人 間 科	心 理 学	0	社 会	0	公 民 0	—	—	—	—	—	0	
		社 会 学	2	社 会	1	地 理 史 1 公 民 1	—	—	—	—	—	3	
	小 計			105	—	74	—	151	—	—	—	—	225
	二 部	経 済	経 済	0	社 会	0	地 理 史 0 公 民 0 商 業 0	—	—	—	—	—	0
		法	法 律	3	社 会	2	地 理 史 2 公 民 3	—	—	—	—	—	7
商		マ ー ケ テ ィ ン グ	1	社 会	0	地 理 史 0 公 民 0 商 業 1	—	—	—	—	—	1	
小 計			4	—	2	—	6	—	—	—	—	8	
科 目 等 履 修 生			3	国 語	0	国 語 0 書 道 0	—	—	—	—	—	0	
				外 国 語 (英 語)	1	外 国 語 (英 語) 1	—	—	—	—	—	1	
				社 会	1	地 理 史 2 公 民 1 商 業 0 情 報 0	—	—	—	—	—	6	
小 計			3	—	2	—	4	—	—	—	—	6	
大 学 院 生			1	—	—	—	—	国 語 0 外 国 語 (英 語) 0	—	—	—	0	
				—	—	—	—	社 会 0	—	—	—	0	
				—	—	—	—	—	—	—	—	0	
小 計			1	—	—	—	—	—	0	—	—	0	
合 計			113	—	78	—	161	—	0	—	—	239	

- 1 この表は、教員免許状一括申請をした数である。
- 2 経済学部経済学科の2019年度入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
- 3 経済学部国際経済学科の2019年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
- 4 商学部マーケティング学科の2019年度以降入学者は高等学校地理歴史の免許状を取得できない。

令和 4 年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	2	0	1	1
		国 際 経 済	2	0	0	2
	法	法 律	3	0	2	0
		政 治	0	0	0	1
	経 営	経 営	2	0	1	3
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	1	0
		会 計	1	0	0	0
	文	日 本 語	1	0	1	1
		日 本 文 学 文 化	14	1	5	3
		英 語 英 米 文	1	1	0	0
		哲 学	3	1	1	0
		歴 史	6	1	3	18
		環 境 地 理	0	1	0	1
人 文 ・ ジャ ー ナ リ ス ム		0	0	0	0	
ジャ ー ナ リ ス ム	5	0	1	4		
ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	0	0	
人 間 科	心 理 学	1	0	0	1	
	社 会 学	3	0	3	3	
小 計			45	6	19	38
二 部	経 済	経 済	1	0	0	1
	法	法 律	2	0	1	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	0	1	0
	小 計			4	0	2
科 目 等 履 修 生			0	0	1	0
大 学 院 生			0	0	0	1
合 計			49	6	22	40

データ編
Passo a Passo

令和4年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海道北見北斗高等学校	地理歴史(日本史)	経済	経済	
	宮城県	常盤木学園高等学校	英語	文	英語英米文	
	宮城県	宮城県仙台第三高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	福島県	福島県立会津高等学校	地理歴史	経済	経済	
	福島県	福島県立磐城高等学校	国語	文	日本語	
	福島県	尚志高等学校	国語	文	日本文学文化	
	福島県	福島県立ふたば未来学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
関東	茨城県	茨城県立境高等学校	地理歴史	経済	経済	
	茨城県	常総学院高等学校	公民	経済	経済	
	栃木県	作新学院高等学校	地理歴史・公民	文	環境地理	
	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	商業	経営	経営	
	埼玉県	さいたま市立宮原中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	川越市立霞ヶ関西中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	埼玉県立所沢高等学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	川越市立砂中学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	本庄東高等学校	地理歴史	文	哲	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済	
東	千葉県	松戸市立和名ヶ谷中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立検見川高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	安田学園高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	多摩大学目黒高等学校	国語	文	日本語	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東 東	東京都	安田学園高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立小平高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	立正大学付属立正中学校・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	明治学院中学校・明治学院東村山高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立松原高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	瀧野川女子学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	実践学園中学・高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	瀧野川女子学園中学・高等学校	社会・地理歴史	文	哲	
	東京都	東京都立文京高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	東京都	西東京市立青嵐中学校	社会	文	歴史	
	東京都	白梅学園高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立小岩高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立上水高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	大成高等学校	公民	文	環境地理	
	東京都	狛江市立狛江第二中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立芦花高等学校	地理歴史	人間科	社会	
神奈川県	横須賀市立大津中学校	社会	経済	経済		
神奈川県	神奈川県立岸根高等学校	地理歴史	経済	経済		
神奈川県	向上高等学校	地理歴史(地理)	経済	経済		

令和4年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関 東	神奈川県	神奈川県立上溝高等学校	公民	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公民	経営	経営	
	神奈川県	山手学院中学校・高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	座間市立西中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立神奈川総合高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	伊勢原市立成瀬中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立犬蔵中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立六角橋中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立永田中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立西中原中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史・公民	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	地理歴史	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	地理歴史	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立七里が浜高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	横浜市立篠原中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	地理歴史	文	歴史	
神奈川県	鎌倉市立大船中学校	社会	文	歴史		
神奈川県	川崎市立中野島中学校	社会	文	歴史		
神奈川県	鎌倉学園中学校・高等学校	社会・地理歴史・公民	文	歴史		
神奈川県	大和市立光丘中学校	社会	文	歴史		
関 東 甲 信 越	神奈川県	神奈川県立横浜桜陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	横浜市立早淵中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	横浜市立西本郷中学校	社会	文	環境地理	
	神奈川県	鎌倉市立第一中学校	社会	文	環境地理	
	神奈川県	川崎市立橋高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	新潟県	新潟県立新潟江南高等学校	地理歴史	文	歴史	
	長野県	長野県上田高等学校	地理歴史(日本史)	文	哲	
	長野県	長野県飯山高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	長野県	長野県野沢北高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	常葉大学附属菊川高等学校	地理歴史	経済	経済	
	静岡県	静岡市立清水高部小学校	全科	経済	経済	
	静岡県	藤枝明誠高等学校	地理歴史	経済	経済	
近 畿 中 国	兵庫県	姫路市立大津中学校	社会	経済	経済	
	広島県	進徳女子高等学校	地理歴史	文	歴史	
	山口県	山口県立豊浦高等学校	公民	経営	経営	
	山口県	高川学園中学校・高等学校	社会・公民	経営	経営	
四 国 九 州 沖 縄	高知県	高知市立城北中学校	社会	経営	経営	
	大分県	明豊中学・高等学校	国語	文	日本語	

令和4年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道 東北 関東 東	山形県	山形市立商業高等学校	商業	商	マーケティング
	群馬県	常磐高等学校	地理歴史	法	政治
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	千葉県立流山高等学校	商業	商	マーケティング
	千葉県	流山市立東部中学校	社会	商	マーケティング
	東京都	東海大学菅生高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立府中高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	二松学舎大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立松が谷高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	商	マーケティング
	東京都	日本体育大学荏原高等学校	公民	商	マーケティング
	神奈川県	横浜市立戸塚高等学校	地理歴史	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	
関東 東	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	地理歴史	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立座間総合高等学校	公民	法	法律	
	神奈川県	横浜市立篠原中学校	社会	法	法律	
	神奈川県	藤沢翔陵高等学校	公民	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立藤沢清流高等学校	地理歴史	法	政治	
	神奈川県	藤沢市立善行中学校	社会	法	政治	
	東海	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	商業	商	マーケティング
		三重県	鈴鹿市立大木中学校	社会	法	法律
	近畿	京都府	大谷中・高等学校	社会	商	マーケティング
	中国 九州・沖縄	鳥取県	鳥取県立倉吉総合産業高等学校	公民	法	法律
鹿児島県		鹿児島高等学校	地理歴史	法	法律	
鹿児島県		鹿児島高等学校	地理歴史	法	政治	

令和4年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道 東北	福島県	福島県立須賀川桐陽高等学校	地理歴史	科目等履修生	
関東 東	埼玉県	埼玉県立羽生第一高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都立王子総合高等学校	商業	商	マーケティング

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東 東	東京都	岩倉高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立小川高等学校	英語	科目等履修生	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	地理歴史	法	法律

令和4年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	千代田区立千代田図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	専修大学図書館	文	日本文学文化	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	文	日本文学文化	

令和4年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	青森県	青森県立美術館	文	歴史	
	宮城県	宮城県美術館	文	日本文学文化	
	福島県	大安場史跡公園	文	歴史	
	福島県	福島県立博物館	文	環境地理	
関東	茨城県	予科練平和記念館	文	歴史	
	茨城県	日立市郷土博物館	文	歴史	
	茨城県	鹿嶋市どきどきセンター	文	ジャーナリズム	
	栃木県	栃木県立博物館	文	歴史	
	群馬県	岩宿博物館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立自然史博物館	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	歴史	
	埼玉県	行田市郷土博物館	人間科	社会	
	千葉県	野田市郷土博物館	文	歴史	
	東京都	東京都葛西臨海水族園	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
東京都	清瀬市郷土博物館	文	歴史		
東京都	東京富士美術館	文	歴史		
東京都	古代オリエント博物館	文	歴史		
東京都	進化生物学研究所	文	歴史		
東京都	日本民藝館	文	環境地理		
東京都	東京都多摩動物公園	文	環境地理		

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	進化生物学研究所	文	ジャーナリズム	
	神奈川県	シルク博物館	経済	国際経済	
	神奈川県	はまぎんこども宇宙科学館	文	日本文学文化	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	文	歴史	
	神奈川県	横浜ユーラシア文化館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史	
	神奈川県	雪印こどもの国牧場	文	歴史	
	神奈川県	箱根町立郷土資料館	文	歴史	
甲信越	神奈川県	理科ハウス	文	歴史	
	新潟県	新潟県埋蔵文化財センター	文	歴史	
	新潟県	新潟市美術館	文	歴史	
	長野県	辰野美術館	経済	国際経済	
	長野県	長野県立歴史館	文	歴史	
	長野県	松本市立博物館	文	歴史	
北陸	石川県	金沢21世紀美術館	経済	経済	
近畿	兵庫県	姫路文学館	文	日本文学文化	
四国	愛媛県	愛媛県美術館	文	ジャーナリズム	
	長崎県	大村市歴史資料館	人間科	社会	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科	
平成30年度	平25 経済・経済	練馬区立中村小学校	専任	全科	
	平28 経済・経済	横浜市立小坪小学校	専任	全科	
	平28 経済・経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	専任	地理歴史	
	平30 経済・経済	藤沢市立秋葉台中学校	非常勤	社会科	
	平30 経済・経済	北九州市立木屋瀬小学校	非常勤	全科	
	平30 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	非常勤	地理歴史	
	平26 法・法律	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専任	地理歴史・公民	
	平26 法・法律	木更津市立馬来田小学校	専任	全科	
	平27 法・法律	山梨大学附属小学校	専任	特別支援	
	平28 法・政治	松戸市立第一中学校	専任	社会科	
	平30 法・政治	東京都立新宿山吹高等学校	専任	公民	
	平30 法・政治	神奈川県立川崎高等学校	専任	地理歴史	
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	専任	社会科	
	平30 経営・経営	岐阜県立岐阜城北高等学校	非常勤	商業	
	平30 経営・経営	神奈川県立小田原東高等学校	臨時的任用	商業	
	平30 経営・経営	清川村立緑中学校	専任	社会科	
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	臨時的任用	全科	
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	専任	商業	
	平成30年度	平29 商・マーケティング	学校法人上野塾（東京実業高等学校） 大田区立志茂田中学校 目黒区立東山中学校	非常勤	社会科
		平30 商・マーケティング	学校法人京華学園（京華商業高等学校）	非常勤	商業
		平30 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専任	商業
		平30 商・会計	茨城県立土浦第三高等学校	専任	商業
		平30 商・会計	岐阜県立岐阜各務野高等学校	非常勤	商業
		平22 文・日本語	東京都教育委員会	専任	国語
		平27 文・日本語	新島村立式根島小学校	専任	全科
		平28 文・日本語	綾瀬市立北の台中学校	専任	国語
		平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	専任	国語
		平30 文・日本語	学校法人高松学園（飯田女子高等学校）	非常勤	国語
		平30 文・日本語	相模原市立東林中学校	非常勤	国語
		平30 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	非常勤	国語
		平30 文・日本語	神奈川県立伊勢原高等学校	期限付任用	国語
		平30 文・日本語	学校法人駿台甲府学園（駿台甲府学園中学校・高等学校）	期限付任用	国語
		平30 文・日本語	松田町立松田中学校	専任	国語
		平30 文・日本語	千葉県立松戸馬橋高等学校	期限付任用	国語
		平30 文・日本語	多摩市立青陵中学校	臨時的任用	国語
		平30 文・日本文学文化	学校法人横浜学院（横浜女学院中学・高等学校）	非常勤	国語
		平30 文・日本文学文化	埼玉県立小川高等学校	非常勤	国語
		令和元年度	平28 文・英語英米文	川崎市立大師中学校	専任
	平30 文・英語英米文		学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	英語
	平30 文・英語英米文		横浜市立鶴見中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文		大田区立蓮沼中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文		横浜市立田奈中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文		学校法人タイケン国際学園（日本ウェルネス高等学校・東京キャンパス）	専任	英語
	平30 文・英語英米文		市原市立ちはら台西中学校	専任	英語
	平30 文・英語英米文		神奈川県立綾瀬高等学校	専任	英語
	平28 文・哲		新潟県立外ヶ輪小学校	専任	全科
	平28 文・哲		新潟県立高田特別支援学校	専任	社会科
	平30 文・哲		常総市立菅生小学校	非常勤	全科
	平28 文・歴史		学校法人日本体育大学（日本体育大学柏高等学校）	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史		千葉県立八千代西高等学校	非常勤	地理歴史
平30 文・歴史	学校法人富士学園（静岡県富士見高等学校）		非常勤	地理歴史・公民	
平30 文・歴史	学校法人世田谷学園（世田谷学園中学校・高等学校）		非常勤	地理歴史・公民	
平30 文・歴史	神奈川県立七里ヶ浜高等学校	非常勤	地理歴史		
平30 文・歴史	東京文理学院高等部	非常勤	地理歴史・公民		
平30 文・歴史	栃木県立鹿沼高等学校	非常勤	地理歴史		
平30 文・歴史	群馬県立館林商工高等学校	非常勤	地理歴史・公民		
平30 文・歴史	江戸川区立瑞江中学校	専任	社会科		
平30 文・歴史	愛川町立愛川中原中学校	専任	社会科		
平30 文・環境地理	糸魚川市立糸魚川小学校	非常勤	全科		
令和元(平成31)年度	平27 文・人文ジャーナリズム	川崎市立田島支援学校 桜校	専任	特別支援	
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都教育委員会	専任	数学	
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	西伊豆町立西伊豆中学校	臨時的任用	数学	
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉学園中学校	専任	数学	
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大妻学院（大妻多摩中学高等学校）	非常勤	数学	
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	山梨県教育委員会	期限付任用	数学	
	平30 人間科・心理	香取市立栗源中学校	非常勤	社会科	
	平29 院文・修士	上田市立第六中学校	臨時的任用	国語	
	平30 院文・修士	川崎市立京町中学校	非常勤	国語	
	平30 院文・修士	福島県立磐城高等学校	非常勤	英語	
	平29 院文・博士	学校法人成蹊学園（成蹊高等学校）	非常勤	地理歴史	
	平28 経済・経済	神奈川県立生田高等学校	専任	地理歴史	
	平30 経済・経済	学校法人緑丘学園（水戸英宏小学校）	非常勤	全科	
	平30 経済・経済	逗子市立沼間中学校	専任	社会科	
	平31 経済・経済	神奈川県立金目谷高等学校	非常勤	公民	
平31 経済・経済	藤沢市立白浜養護学校	非常勤	特別支援		
平31 経済・経済	江東区立元加賀小学校	臨時的任用	全科		
平28 経済・国際経済	学校法人小野学園（小野学園小学校）	専任	全科		
平31 経済・国際経済	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専任	社会・地理歴史・公民		
平31 経済・国際経済	学校法人いわき秀英学園（いわき秀英中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民		
平17 法・法律	豊島区立南池袋小学校	専任	全科		
平27 法・法律	埼玉県立秩父高等学校	専任	公民		

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和元年度	平28 法・法律	船橋市立丸山小学校	専任	全科
	平29 法・法律	江戸川区立小岩第五中学校	専任	英語
	平31 法・法律	学校法人横浜商科大学高等学校 (横浜商科大学高等学校)	非常勤	地理歴史・公民
	平31 法・法律	学校法人専修大学附属高等学校 (専修大学附属高等学校)	非常勤	地理歴史
	平31 法・法律	神奈川県立大船高等学校	期限付	地理歴史
	平31 法・法律	中野区立江原小学校	専任	全科
	平31 経営・経営	学校法人大分高等学校 (大分高等学校)	非常勤	商業
	平31 経営・経営	中津川市立神坂中学校	専任	社会
	平22 商・マーケティング	山口県立宇部商業高等学校	専任	商業
	平27 商・マーケティング	市原市立若葉中学校	専任	社会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	専任	全科
	平29 商・マーケティング	大田区立志茂田中学校	非常勤	社会
	平30 商・マーケティング	大島町立第二中学校	専任	体育
	平31 商・マーケティング	茨城県立石岡商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	川崎市立白鳥中学校	非常勤	社会
	平31 商・マーケティング	岐阜県立土岐商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	学校法人玉名学園 (専修大学玉名高等学校)	非常勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	学校法人安部学院 (安部学院高等学校)	専任	商業
	平24 商・会計	東京都立五日市高等学校	専任	商業
	平31 商・会計	高知県立清水高等学校	非常勤	商業
	平28 文・日本語	大和市立引地台中学校	専任	国語
	平29 文・日本語	神奈川県立横浜明朋高等学校	専任	国語
	平29 文・日本語	南アルプス市立白根御勅使中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	町田市立小山中学校	専任	国語
	平31 文・日本語	学校法人長野家政学園 (長野女子高等学校)	非常勤	国語
	平31 文・日本語	学校法人武蔵野学院 (武蔵野中学高等学校)	非常勤	国語
	平31 文・日本語	学校法人白鷗女子学院 (白鷗女子高等学校)	非常勤	国語
	平31 文・日本語	神奈川県立横浜桜陽高等学校	専任	国語
	平31 文・日本語	埼玉県立朝霞高等学校 (定時制)	専任	国語
	平28 文・日本文学文化	川崎市立白鳥中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人瀧野川女子学園 (瀧野川女子学園中学高等学校)	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人明德学園 (相洋高等学校)	非常勤	国語
	平31 文・日本文学文化	葉山町立葉山中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	常総市立水海道西中学校	非常勤	国語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園 (立花学園高等学校)	専任	英全
	平29 文・英語英米文	大田区立清水窪小学校	専任	英語
	平30 文・英語英米文	東京都教育委員会	専任	英全
	平30 文・英語英米文	神奈川県立大井高等学校	専任	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人明星学園 (浦和学院高等学校)	非常勤	英語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立弥栄高等学校	臨時の任用	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人関東国際学園 (関東国際高等学校)	非常勤 (期限付)	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人東駿学園 (御殿場西高等学校)	非常勤	英語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専任	英語
	平30 文・哲	板橋区立富士見台小学校	専任	英全
	平30 文・哲	坂東市立岩井第二小学校	専任	英全
平31 文・哲	渋谷区立千駄谷小学校	専任	英全	
平31 文・哲	学校法人常磐大学 (智学館中等教育学校)	非常勤	社会・地理歴史・公民	
平31 文・哲	横浜市立浦島丘中学校	専任	社会	
平29 文・歴史	千葉県立都賀中学校	専任	社会	
平30 文・歴史	学校法人日本体育大学 (日本体育大学荏原高等学校)	非常勤	社会・地理歴史・公民	
平30 文・歴史	学校法人戸坂学園 (三田国際学園中学校)	非常勤	社会・地理歴史・公民	
平30 文・歴史	千葉県立市川昂高等学校	非常勤	公民	
平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	期限付	特別支援	
平31 文・歴史	横浜市立釜利谷中学校	専任	社会	
平31 文・歴史	千葉県立津田沼高等学校	非常勤	地理歴史・公民	
平31 文・歴史	射水市立新湊中学校	専任	社会	
平31 文・歴史	豊橋市立高豊中学校	非常勤	社会	
平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	島田市立金谷中学校	専任	数学科	
平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	臨時の任用	全科	
平31 院文・修士	学校法人芝浦工業大学 (芝浦工業大学柏中学校・高等学校)	非常勤	国語	
平31 院文・修士	学校法人光明学園 (相模原高等学校)	専任	英語	
令和2年度	令2 経済・経済	長崎県立島原特別支援学校	非常勤	特別支援
令2 経済・経済	川崎市立生田中学校	非常勤	特別支援	
令2 経済・国際経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	非常勤	地理歴史	
平27 法・法律	山梨県立わかば支援学校	専任	特別支援	
平30 法・法律	牛久市立ひたち野うしく中学校	専任	社会	
平30 法・法律	あきる野市立増戸小学校	専任	全科	
令2 法・法律	熊谷市立三尻中学校	臨時の任用	社会	
令2 法・法律	焼津市立小川中学校	非常勤	社会	
平29 法・政治	東京都立紅葉川高等学校	専任	地理歴史	
令2 経営・経営	学校法人佼成学園 (佼成学園女子中学高等学校)	専任	情報	
平29 商・マーケティング	宮城県仙台高等学校	専任	商業	
平30 商・マーケティング	学校法人長野家政学園 (長野女子高等学校)	非常勤	地理歴史・公民	
平31 商・マーケティング	川崎市立菅中学校	専任	社会	
令2 商・マーケティング	学校法人荒井学園 (新川高等学校)	非常勤	公民	
令2 商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	非常勤	商業	
令2 商・マーケティング	学校法人九里学園 (浦和実業学園高等学校)	非常勤	商業	
令2 商・マーケティング	横浜市立いずみ野中学校	臨時の任用	特別支援	
平31 商・会計	高知県立大方高等学校	専任	商業	
令2 商・会計	千葉県立千葉商業高等学校	専任	商業	
令2 商・会計	埼玉県立幸手桜高等学校	専任	商業	
平22 文・日本語日本文	神奈川県立秦野総合高等学校	専任	保健体育	
令2 文・日本語	学校法人専修大学附属高等学校 (専修大学附属高等学校)	非常勤	国語	
令2 文・日本語	学校法人横浜商科大学高等学校 (横浜商科大学高等学校)	非常勤	国語	

データ編

Pano a Pano

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科	
令和2年度	令2 文・日本語	川崎市立川崎高等学校	臨時的任用	国語	
	令2 文・日本語	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学校・高等学校）	常勤	国語	
	令2 文・日本語	四街道市立四街道中学校	専任	国語	
	令2 文・日本文学文化	学校法人柏木学園（柏木学園高等学校）	常勤	国語	
	令2 文・日本文学文化	横浜市立東山田中学校	専任	国語	
	令2 文・日本文学文化	牧之原市立榛原中学校	専任	国語	
	令2 文・日本文学文化	神奈川県立秦野首屋高等学校	専任	国語	
	平31 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専任	英語	
	令2 文・英語英米文	八王子市立川口中学校	臨時的任用	英語	
	令2 文・英語英米文	学校法人愛国学園（愛国高等学校）	専任	英語	
	令2 文・英語英米文	八王子市立宮上中学校	専任	英語	
	令2 文・英語英米文	静岡県立御殿場高等学校	常勤	英語	
	令2 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	常勤	英語	
	平30 文・歴史	習志野市立第二中学校	専任	社会	
	平30 文・歴史	神奈川県立厚木商業高等学校	専任	地理歴史	
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	専任	特別支援	
	令2 文・歴史	学校法人沖永学園（帝京八王子中学校・高等学校）	専任	社会・地理歴史	
	令2 文・歴史	学校法人國學院大學（國學院大學久我山中学高等学校）	非常勤	社会・地理歴史	
	令2 文・歴史	富岡市立吉田小学校	非常勤	全科	
	令2 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属静岡翔洋高等学校）	非常勤	地理歴史・公民	
	令2 文・歴史	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専任	地理歴史・公民	
	令2 文・歴史	川島町立川島中学校	臨時的任用	社会	
	令2 文・歴史	裾野市立西中学校	常勤	社会	
	令2 文・歴史	千葉県立小中台中学校	非常勤	特別支援	
	令2 文・歴史	千葉県立若松高等学校	非常勤	地理歴史	
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立赤堀中学校	専任	社会	
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	専任	全科	
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	株式会社ウィザース（第一学院高等学校）	常勤	情報	
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	臨時的任用	数学	
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田東高等学校	非常勤	情報	
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立総合科学高等学校（定時制）	臨時的任用	数学	
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	魚沼市立魚沼北中学校	常勤	数学	
	平30 院文・修士	会津若松市立第五中学校	専任	英語	
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語	
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語	
	令和3年度	平29 経済・経済	神奈川県立白山高等学校	専任	地理歴史
		平31 経済・経済	横須賀市立栗田小学校	専任	全科
		平31 経済・経済	目黒区立油面小学校	専任	全科
		令2 経済・経済	鹿嶋市立大野中学校	専任	社会
		令3 経済・経済	学校法人上田学園（上田西高等学校）	常勤	地理歴史・公民
		令3 経済・経済	川崎市立枳形中学校	専任	社会
		令3 経済・経済	川崎市立はるひ野小学校	専任	全科
		令3 経済・経済	盛岡市立仙北中学校	専任	社会
		令3 経済・経済	山梨県立上野原高等学校	非常勤（実習助手）	地理歴史・公民
		令3 経済・国際経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来さずな高等学校 神戸キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
令3 経済・国際経済		学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民	
令3 経済・国際経済		学校法人常総学院（常総学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民	
平17 法・法律		神奈川県立津久井養護学校	専任	特別支援	
平31 法・法律		神奈川県立永谷高等学校	専任	地理歴史	
令3 法・法律		千葉県立京葉工業高等学校	専任	地理歴史・公民	
令3 経営・経営		学校法人足利大学（足利大学附属高等学校）	非常勤	地理歴史・公民	
平27 商・マーケティング		岐阜県立郡上北高等学校	専任	商業	
令3 商・マーケティング		静岡市立末広中学校	常勤	社会	
令3 商・マーケティング		学校法人時任学園（樟南第二高等学校）	常勤	商業	
令2 文・日本語		学校法人九里学園（浦和実業学園中学校・高等学校）	常勤	国語	
令3 文・日本語		藤沢市立御所見中学校	臨時的任用	国語	
令3 文・日本語		学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	常勤	国語	
令3 文・日本語		秩父市立高篠中学校	専任	国語	
令3 文・日本語		学校法人明德学園（相洋高等学校）	非常勤	国語	
令3 文・日本語		岡谷市立岡谷西部中学校	非常勤	国語	
令3 文・日本語		長野県茅野高等学校	専任	国語	
令3 文・日本語		鴨川市立安房東中学校	専任	国語	
平31 文・日本文学文化		筑西市立下館南中学校	専任	国語	
令2 文・日本文学文化		大阪市立加美中学校	専任	国語	
令3 文・日本文学文化		横浜市立橋中学校	専任	国語	
令3 文・日本文学文化		東京都教育委員会	専任	国語	
令3 文・日本文学文化		横浜市立東高等学校	専任	国語	
令3 文・日本文学文化		町田市立南中学校	産休代替	国語	
平30 文・英語英米文		学校法人山形電波学園（創学館高等学校）	非常勤	英語	
令2 文・英語英米文		目黒区立第七中学校	専任	英語	
令3 文・英語英米文		神奈川県立橋本高等学校	専任	英語	
令3 文・英語英米文		小金井市立南中学校	専任	英語	
令3 文・英語英米文		学校法人向上学園（向上高等学校）	非常勤	英語	
令3 文・英語英米文		埼玉県立上尾橋高等学校	非常勤	英語	
平30 文・哲		相模原市立田名小学校	専任	全科	
平31 文・哲		神奈川県立大和西高等学校	専任	地理歴史・公民	
平28 文・歴史		東京都立井草高等学校	専任	地理歴史	
平31 文・歴史		佐倉市立西志津中学校	専任	社会	
令3 文・歴史		学校法人土佐女子高等学校（土佐女子中学高等学校）	常勤	社会・地理歴史	
令3 文・歴史		網走市立第一中学校	専任	社会	
令3 文・歴史	山形県立遊佐高等学校	常勤	地理歴史・公民		

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科	
令和3年度	令3 文・歴史	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民	
	令3 文・歴史	板橋区立西台中学校	専任	社会	
	令3 文・歴史	上越市立八千浦中学校	専任	社会	
	令3 文・歴史	学校法人早稲田学園（わせがく高等学校 勝田台キャンパス）	常勤	地理歴史	
	令3 文・歴史	大田区立赤松小学校	その他（教員支援員）		
	令3 文・歴史	八王子市立鎌水中学校	産休代替	社会	
	令3 文・歴史	学校法人矢野学園（八王子実践高等学校）	非常勤	地理歴史	
	令3 文・環境地理	青森県立北斗高等学校	非常勤	地理歴史・公民	
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	富士吉田市立富士見台中学校	専任	数学	
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横須賀市立岩戸中学校	非常勤	特別支援	
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	平塚市立大住中学校	臨時的任用	数学・特別支援	
	令3 人間科・社会	大田区立田園調布小学校	その他（学校特別支援員）		
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	常勤	社会	
	令3 人間科・社会	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民	
	令3 人間科・社会	島田市立六合中学校	常勤	社会	
	平29 院文・修士	学校法人堀井学園（横浜翠陵中学・高等学校）	常勤	英語	
	平31 院文・修士	小金井市立緑中学校	専任	英語	
	平29 院文・修士	学校法人昭和学院（昭和学院秀英高等学校）	専任	地理歴史	
	令和4年度	令4 経済・経済	品川区立日野学園	専任	社会
		令4 経済・経済	相模原市立くぬぎ台小学校	常勤	全教科
		平28 経済・国際経済	江戸川区立南篠崎小学校	専任	全教科
		令2 経済・国際経済	神奈川県立住吉高等学校	専任	地理歴史
		平28 法・法律	茨城県立多賀高等学校	専任	地理歴史・公民
		令4 法・法律	綾瀬市立綾瀬中学校	臨時的任用	社会
令4 法・法律		あきる野市立五日市中学校	専任	社会	
令4 法・政治		七ヶ浜町立向洋中学校	常勤	社会	
令4 経営・経営		山形県立天童高等学校	専任	商業	
令2 商・マーケティング		横須賀市立鴨居中学校	常勤	商国	
令3 商・マーケティング		静岡市立清水第七中学校	専任	社会	
令4 商・マーケティング		浦添市立浦添中学校	非常勤	社会	
令4 商・マーケティング		学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校 札幌キャンパス）	非常勤	公民	
令4 商・会計		静岡県立浜松東高等学校	常勤	商業	
令4 商・会計		神奈川県立厚木商業高等学校	期限付	商業	
令2 文・日本語		神奈川県立岸根高等学校	専任	国語	
令4 文・日本語		鎌倉市立御成中学校	常勤	国語	
令4 文・日本語		学校法人上野塾（東京高等学校）	非常勤	国語	
令4 文・日本語		神奈川県立鶴見高等学校	専任	国語	
令4 文・日本語		学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	専任	国語	
令4 文・日本語		学校法人有明学園（有明高等学校）	常勤	国語	
令4 文・日本語		習志野市立第四中学校	臨時的任用	国語	
令3 文・日本文学文化		八王子市立中山中学校	専任	国語	
令4 文・日本文学文化		富岡市立西中学校	期限付	国語	
令4 文・日本文学文化	平塚市立神田中学校	常勤	国語		
令4 文・日本文学文化	神奈川県立藤沢清流高等学校	非常勤	国語		
令4 文・日本文学文化	山形県立新庄北高等学校	非常勤	国語		
令4 文・日本文学文化	埼玉県立草加かがやき特別支援学校中部	臨時的任用	国語(全科)		
令4 文・日本文学文化	横浜市立日吉台中学校	専任	国語		
令2 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常勤	英語		
令3 文・英語英米文	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	専任	英語		
令4 文・英語英米文	前橋市立城東小学校	専任	英語		
令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語		
令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語		
令4 文・英語英米文	高崎市立箕輪小学校	専任	全教科		
令4 文・英語英米文	神奈川県立鶴見総合高等学校	専任	英語		
令4 文・英語英米文	鎌ヶ谷市立第三中学校	専任	英語		
令2 文・哲	柏崎市立田尻小学校	臨時的任用	音楽・書写		
令4 文・哲	海老名市立柏ヶ谷中学校	臨時的任用	特別支援(社会)		
令2 文・歴史	神奈川県立西湘高等学校	専任	地理歴史		
令4 文・歴史	神奈川県立新羽高等学校	常勤	地理歴史・公民		
令4 文・歴史	東京都立蒲田高等学校	専任	地理歴史		
令4 文・歴史	諏訪市立上諏訪中学校	常勤	社会		
令4 文・歴史	学校法人湘南学院（湘南学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民		
令4 文・歴史	埼玉県立羽生高等学校	非常勤	地理歴史		
令4 文・歴史	千葉県立市川昂高等学校	専任	地理歴史・公民		
令4 文・歴史	御殿場市立御殿場中学校	常勤	社会		
令4 文・歴史	学校法人関東学園（関東学園大学附属高等学校）	専任	地理歴史		
令4 文・歴史	神奈川県立田奈高等学校	専任	地理歴史・公民		
令2 文・環境地理	柏崎市立第一中学校	専任	社会		
令4 文・環境地理	学校法人堀井学園（横浜創英中学・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史		
令4 文・人文・ジャーナリズム	学校法人西海学園（西海学園高等学校）	期限付	地理歴史・公民		
令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立高津高等学校	専任	情報学		
令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立愛川高等学校	専任	情報学		
令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田高等学校	専任	情報学		
令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立舞岡高等学校	専任	情報学		
令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立南瀬谷中学校	期限付	数学会		
令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	専任	社会		
令4 人間科・社会	横浜市立神奈川中学校	臨時的任用	社会		
令4 人間科・社会	土浦市立都和中学校	専任	社会		
平24 院文・修士	学校法人駒澤大学（駒澤大学高等学校）	専任	地理歴史		
令2 院文・修士	千葉県立我孫子東高等学校	専任	英語		
令4 院文・修士	学校法人鳥取学園（鳥取城北高等学校）	常勤	国語		

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学附属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国土館大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングcommons	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
日野市郷土資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国土館大学国土館史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
深谷市教育委員会	千葉県教育庁教育振興部文化財課
（公財）横浜市ふるさと歴史財団	たましん歴史・美術館 歴史資料室

令和4年度 資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程 学校司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金(全学年)※一部3月前期・通年科目履修登録および履修修正(全学年)							
	中旬 下旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会 教育実習事前ガイダンス	3 3・4 4						
5月	上旬	教育実習(5月～12月)	4						
	下旬	介護等の体験代替措置(5月中旬～9月中旬)	3・4				博物館実習事前ガイダンス	3・4	
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス	3					博物館見学実習	3・4
	中旬	教育実習内諾書の提出	3					博物館実習(館務実習)	3・4
	下旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書申請ガイダンス(3年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者)	4	博物館実習(6月～12月)	
7月	下旬	前期試験(全学年)							
		図書館実習事前ガイダンス		3・4					
8月	上旬 下旬	夏期休暇(8月上旬～9月中旬) 前期追試験(全学年)							
		図書館実習(8月～11月)		3・4					
9月	中旬	後期科目履修登録および履修修正(全学年)							
	下旬	教員免許状授与申請書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書申請ガイダンス(4年次で司書教諭の科目を履修した者)	4	館務実習登録ガイダンス(第1回)	2・3
10月	上旬	教職公開講座(オンライン)	1～4						
11月	中旬							館務実習登録ガイダンス(第2回)	2・3
	下旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中旬			図書館実習報告会(オンライン)	1～4			学芸員課程セミナー	
				司書課程就職(進路)懇談会(オンライン)	1～4				
1月	下旬	後期試験(全学年)							
2月	中旬	後期追試験(全学年)							
		学校司書課程講演会・受講説明会(オンライン)		1～4				館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4						

データ編

Pano. a Pano.

令和4年度 教職相談実施結果

1. 実施期間

令和4年4月～令和5年1月

2. 実施日・担当者

場 所	担 当 者	相 談 日 (4月～8月)	相 談 日 (9月～1月)
生 田	肝付 俊朗	月曜日 12:30～14:30	—
		火曜日 10:45～12:00	火曜日 10:45～12:00
		金曜日 12:00～14:00	金曜日 12:00～14:00
	齋藤 博志	月曜日 11:30～13:00	月曜日 11:00～13:00
神 田	肝付 俊朗	水曜日 12:00～14:00	—
オ ン ラ イ ン	—	—	水曜日 12:00～14:00
	嶺井 正也	希望者と相談の上決定	希望者と相談の上決定

3. 実施結果

(1) 肝付 俊朗 文学部特任教授、齋藤 博志 商学部客員教授

①月別曜日別相談者数

場 所	曜 日 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生 田	月曜日	8	11	6	6	—	1	4	2	11	1	50
	火曜日	3	0	0	1	—	0	2	0	2	2	10
	金曜日	0	4	1	3	—	1	4	2	8	5	28
神 田	水曜日	2	2	0	5	—	0	0	1	1	0	11
合 計		13	17	7	15	—	2	10	5	22	8	99

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営		商		文						初等・中等	人間科	国際	科目等	合計	
学科	経済	現代経済	生活環境経済	国際経済	法律	政治	経営	ビジネスデザイン	マーケティング	会計	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲	歴史	環境地理	初等・中等	心理	社会	日本語		履修生
人数	2 (1)	2 (2)	1 (1)	4 (2)	6 (3)	0	2 (1)	1 (1)	0	1 (1)	1 (1)	14 (6)	26 (8)	1 (1)	17 (13)	6 (3)	1 (1)	0	6 (3)	0	8 (2)	99 (50)

※ () 内の人数は実数

③相談者学年

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	科目等履修生	合 計
人 数	7	10	38	36	8	99

④相談内容

内 容	一次試験対策	論文文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合 計
人 数	0	35	5	21	7	5	4	5	21	103

※相談者数と相談内容数は一致せず。1回で複数の相談内容有。

⑤その他の内容

- ・教員採用試験後の就職活動、教員採用や教職の道についての手立てや今後の進路について
- ・現在経済学部にいるが、国語の教師になりたいと考え、その手立てについて
- ・名簿登録から採用までの流れ及び4月に向けての準備について
- ・特別支援の免許の取得方法と特別支援学校等への採用の実態について
- ・障がいがある子どもとの関わりがでるボランティア先はないか
- ・夏休み中のボランティア先を見つけたい
- ・教師を目指すかどうか進路選択の悩み
- ・卒業後、非常勤講師等になるための事務手続き等について
- ・学級経営案の書き方、卒業論文作成上の悩み
- ・教職に就く前に社会人経験を積むことについて

⑥相談日数

場 所	曜 日 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生 田	月曜日	2	5	4	3	—	1	4	4	3	1	27
	火曜日	2	5	3	2	—	2	4	4	3	2	27
	金曜日	0	4	2	3	—	1	4	3	4	2	23
神 田	水曜日	2	4	4	3	—	2	4	4	3	2	28
合 計		6	18	13	11	—	6	16	15	13	7	105

(2) 嶺井 正也 専修大学名誉教授 ※福山文子経営学部准教授、真壁直人先生(前仙台市立中学校長)及び宮坂恵美子先生(高等学校主任教諭)と協働

①相談者数

- 4月～8月 相談者数(延べ) 約70名
 在学生: 4年生16名(経済学部経済学科、経営学部経営学科、商学部マーケティング学科、文学部日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、人間科学部社会学科)
 卒業生: 2名
- 9月～1月 相談者数(延べ) 約720名
 在学生: 4年生4名
 3年生27名

②相談内容

- 4月～8月
- ・一次試験対策
 - ・二次試験対策
 - ・Zoom学習会(面接・小論文・模擬授業を基本)
- 9月～1月
- ・二次面接試験対策(Zoom2回)
 - ・教育時事対策講座(Zoom4回)
 - ・一次試験(教職+一般)筆記試験対策問題送付28回
 - ・小論文対策(2回) *時折、時事資料の送付

③相談日数

- 4月～8月 計22回(4月2回、5月3回、6月3回、7月6回、8月8回)
 9月～1月 計36回(9月2回、10月8回、11月8回、12月9回、1月9回)

④その他

一昨年度あたりから、バンビの会メンバー同士で自主的に面接練習を行うようになり、そこに卒業生がアドバイスで参加するといういい活動が生まれ、継続していることを特筆しておきたい。

令和4年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

・願書（面接票）作成講座

実施日	第1回 令和4年4月12日（火） 10:45～12:00	第2回 令和4年7月12日（火） 10:45～12:00	第3回 令和4年7月20日（水） 10:45～13:00
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 425教室	専修大学生田校舎 4号館2階 425教室	専修大学神田校舎 1号館2階 201教室
対象者	今年度（令和4（2022）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和4（2022）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和4（2022）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	肝付 俊朗 文学部特任教授	肝付 俊朗 文学部特任教授	肝付 俊朗 文学部特任教授
内容	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え
持ち物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参加者	11名（内卒業生0名）	1名（内卒業生0名）	3名（内卒業生0名）
主催	教職課程協議会・エクステンションセンター	教職課程協議会・エクステンションセンター	教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験二次試験対策特別講義

実施日	第1回 令和4年8月1日（月） 10:00～15:30	第2回 令和4年8月3日（水） 10:00～15:30	第3回 令和4年8月4日（木） 11:00～16:00	第4回 令和4年8月18日（木） 11:00～17:00
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・ 427教室・428教室・ 429教室	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・ 427教室・428教室・ 429教室	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・424教室・ 426教室・427教室	専修大学神田校舎 1号館1階 103教室・104教室・ 105教室・106教室・ 107教室
対象者	今年度（令和4（2022）年度） 教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和4（2022）年度） 教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和4（2022）年度） 教員採用試験受験者 （教員採用試験対策講座受講生以外 および卒業生も受講可）	今年度（令和4（2022）年度） 教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②齋藤 博志 商学部客員教授 ③砂原 由和 ネットワーク情報学部教授 ④望月 俊男 ネットワーク情報学部准教授	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②佐藤 由美 商学部教授 ③齋藤 博志 商学部客員教授 ④小峰 直史 人間科学部教授	①長船 孝明 経済学部兼任講師（昭和53年 商学部会計学科卒） （元東京都立荒川商業高等学校校長） ②矢吹 芳洋 経済学部教授 ③福山 文子 経営学部准教授	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②森田 司郎 法学部教授 ③中野 育男 商学部教授 ④齋藤 博志 商学部客員教授
内容	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等） (2) 個別指導（主に個人面談）	(1) 個人面接 (2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
提出物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	特になし	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参加者	11名（内卒業生0名）	13名（内卒業生1名）	12名（内卒業生0名）	11名（内卒業生0名）
主催	教職課程協議会・ エクステンションセンター	教職課程協議会・ エクステンションセンター	エクステンションセンター・ 教職課程協議会	教職課程協議会・ エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義

実施日	第1回 令和4年7月9日（土） 10:00～12:30	第2回 令和4年11月26日（土） 13:30～16:00
実施場所	専修大学生田校舎 1号館2階 122教室	専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
対象者	教員採用試験受験予定者 1年次～4年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	教員採用試験受験予定者 1年次～4年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
担当講師	伊藤 雅夫先生（昭和54年 経済学部経済学科卒） 江東区教育委員会教育支援センター主任相談員 （元江東区立第二砂町中学校校長）	TAC講師 樋口 良太 氏（TAC教員講座 講師） 令和4（2022）年度教員採用試験最終試験合格者 ①後藤 優弥（神奈川県教育委員会 高等学校地理歴史 法学部法律学科4年） ②勝矢 萌（千葉県・千葉市教育委員会 高等学校商業 商学部マーケティング学科4年） ③横山 夏美（東京都教育委員会 中学・高等学校英語 文学部英語英米文学科4年）
内容	(1) 自己紹介および現在の学校現場について (2) 求められる教師像（就職の立場から思うこと） (3) 人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際	(1) TAC講師から各教育委員会の教員採用試験の概要説明 (2) 令和4（2022）年度教員採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答（司会：角田 真紀子 経済学部准教授）
参加者	25名（内卒業生0名）	12名（内卒業生0名）
主催	エクステンションセンター・教職課程協議会	エクステンションセンター・教職課程協議会

令和4年度 教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果

実施日	事項	開催形態	参加者数
令和4年4月21日(木) 16:40~18:00	神奈川県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	9名
令和4年11月14日(月) 16:40~18:00		オンライン	7名
令和4年4月25日(月) 16:40~18:00	千葉県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	4名
令和4年11月16日(水) 16:40~18:00		オンライン	7名
令和4年4月18日(月) 17:00~18:00	東京都公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	5名
令和4年11月18日(金) 16:40~17:40		オンライン	5名
令和4年4月15日(金) 16:40~18:00	相模原市立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	3名
令和4年11月21日(月) 16:40~18:00		オンライン	1名
令和4年4月20日(水) 16:40~18:00	川崎市立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	4名
令和4年11月24日(木) 16:40~18:00		オンライン	3名
令和4年4月26日(火) 16:40~18:00	横浜市公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	7名
令和4年12月2日(金) 16:40~18:00		オンライン	1名

令和4年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 令和4年10月1日(土)
- 時間 14時00分～17時10分
- 開催形態 Google Classroom「2022教職公開講座」およびGoogle Meetによるオンライン開催
- 参加人数 第1部：229名 第2部：217名
- 内容

(1) 今の教育現場について、現職教員とのディスカッション（専修大学OB・OG）

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
伊東美咲先生 (令和3年3月 文学部 日本文学文化学科 卒業)	横浜市立東高等学校	国語
岩崎七夏先生 (令和2年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	目黒区立第七中学校	英語
濱野優芽先生 (令和4年3月 人間科学部 社会学科 卒業)	土浦市立都和中学校	社会
石出悠来先生 (令和4年3月 文学部 歴史学科 卒業)	東京都立蒲田高等学校	地歴・公民
須藤颯斗先生 (令和4年3月 経営学部 経営学科 卒業)	山形県立天童高等学校	商業
渡辺結先生 (平成22年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	神奈川県立鶴嶺高等学校	情報
石田英希先生 (平成30年3月 文学部 哲学科 卒業)	相模原市立田名小学校	小学校
久保田あさ美先生 (令和4年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	高崎市立箕輪小学校	

(2) 求められる教師像

講師	東京都立穂ヶ丘高等学校長 大場 充 先生
----	----------------------

(3) タイムテーブル

	時間	内容	形態	
第1部	14:00~14:05	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet	
	14:05~14:50 (45分)	—今の教育現場について—		
		国語	伊東美咲先生	Google Meet
		英語	岩崎七夏先生	Google Meet
		社会	濱野優芽先生	Google Meet
		地歴・公民	石出悠来先生	Google Meet
		商業	須藤颯斗先生	Google Meet
		情報・数学	渡辺結先生	Google Meet
		小学校	石田英希先生 久保田あさ美先生	Google Meet
	14:00 5 16:00	14:50~15:15	休憩	
第2部	16:00 5 17:10	15:15~16:00 (45分)	—現職教員とのディスカッション—	
		国語	伊東美咲先生	Google Meet
		英語	岩崎七夏先生	Google Meet
		社会	濱野優芽先生	Google Meet
		地歴・公民	石出悠来先生	Google Meet
		商業	須藤颯斗先生	Google Meet
		情報・数学	渡辺結先生	Google Meet
		小学校	石田英希先生 久保田あさ美先生	Google Meet
16:00~16:10	休憩			
16:10~17:10 (60分)	—求められる教師像— 東京都立穂ヶ丘高等学校 校長 大場 充 先生	Google Meet		

令和4年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日 令和4年12月19日(月)
時間 16:30～17:00
開催形態 Google Meetによるオンライン開催
参加人数 12名
内容:今年度、専修大学図書館と千代田区立千代田図書館で図書館実習を行った3名の学生が、実習期間中に経験した業務の概要や全体を通しての感想を報告した。いずれの図書館においても、幅広い業務を経験できたことが報告され、また、図書館業務の種類が多いことや、一つずつの地道な作業の蓄積であることなどが印象的であるとの感想が聞かれた。

令和4年度 司書課程就職(進路)懇談会開催結果

開催日 令和4年12月19日(月)
時間 17:10～18:10
開催形態 Google Meetによるオンライン開催
参加人数 14名
内容:川口市立図書館に勤務されている泉麻莉菜氏に、図書館の概要や業務の体制、中央図書館での障害者サービスと児童サービス、移動図書館、そして、地域図書館での業務についてお話しいただいた。障害者サービスや児童サービスに無我夢中で取り組んだことや、埼玉県や国立教育政策研究所、日本図書館協会などが実施している研修では、多くの知識を得るとともに、他の自治体の図書館職員との交流の機会であったこと、地域図書館では(中央図書館以上に)裁量と責任が伴うことなど、率直なご経験を伺うことができた。最後は、司書として働くということは、利用者と本との関りを考え続けていくことだと結ばれた。参加者からの質問にも丁寧に回答していただいた。

令和4年度 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開催日 令和5年2月15日(水)
時間 18:00～19:30
開催形態 Zoomによるオンライン開催
講師 関口 真弓(ドルトン東京学園中等部・高等部 司書教諭)
受講説明 荻原 幸子(専修大学経営学部教授)
参加人数 35名
内容:関口氏から、「ドルトン東京学園 進化する学校図書館～つながる図書館を目指して～」というテーマでご講演いただいた。内容は、(1)ドルトン東京学園が教育実践の根幹とする「ドルトンプラン(アサインメント、ハウス、ラボラトリー)」にもとづく学校の体制や具体的な活動、(2)「ラーニングコモンズ」として位置づけられた学校図書館が教育の実践にどのように関わっているのか、さらに、(3)関口氏のご経験にもとづく業務に対する考え方、であった。生徒の主体的な学びを重視する教育現場において、教科と教科、教員と生徒、生徒同士、学校と地域、をつなぐ「ハブ」としてのラーニングコモンズの状況を、写真や動画とともに伺うことができた貴重な機会であった。講演の後、荻原幸子教授が専修大学における科目等履修生制度を紹介した。全国各地からの参加者(本学の学生を含む)を得て滞りなく終了した。開催後には、参加者に対する簡単なアンケートを実施した。

令和4年度 学芸員課程 「博物館実習(学内)」の展示実習報告

生田校舎2号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習授業の一環として、実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和4年度は感染症拡大防止対策に配慮し、授業の復習も含めた実践的な展示実習を行ない、一般公開した。

前期公開日 令和4年7月11・13・18～21日 11:30～13:30

- ・テーマ：「博物館実習で学んだこと」
- ・履修者21名 見学者36名

後期公開日 令和4年12月17・19～22日 11:30～13:30

- ・テーマ：「博物館実習のリアル」
- ・履修者21名 見学者31名および学芸員課程セミナー参加者



パネルの展示（前期）



ガラスケースの展示（後期）

令和4年度 第2回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のリアル」開催結果

開催日 令和4年12月17日(土)

時間 13:30～16:00

場所 生田校舎1号館114教室・2号館展示実習室

講師 幕田 淳子氏(日野市教育委員会ふるさと文化財課)

國見 徹氏(大磯町郷土資料館館長)

参加人数 118名

令和4年度 資格課程活動報告

日付	事項	開催形態・場所	参加者
令和4年5月7日	令和4年度 全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	対面・明治大学	職員1名
5月15日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2022年度定期総会、東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会及び2022年度研究部会総会、第1回研究部会	オンライン	教員1名 職員1名
5月28日	一般社団法人全国私立大学教職課程協会 第41回研究大会・令和4年度定時社員総会	オンライン	教員1名 職員1名
6月11日	令和4年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会	オンライン	教員1名 職員1名
6月11日	大学教務実践研究会セミナー 教務系職員初任者向け講習会	オンライン	職員1名
6月17日	令和4年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議(神奈川県教育委員会)	対面・神奈川県立総合教育センター	教員1名 職員1名
6月18日	令和4年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会	オンライン	職員5名
6月25日	2022年度第1回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
6月27日	中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会(第7回)・基本問題小委員会(第7回)・初等中等教育分科会教員養成部会(第130回)合同会議(傍聴)	オンライン	職員1名
7月2日	令和4年度 第1回横浜市 大学連携・協働協議会(横浜市教育委員会)	オンライン	教員1名 職員1名
9月10日	教員免許事務担当者講習会(大学教務実践研究会)	オンライン	教員1名
10月1日	2022年度第2回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
10月14日	専修大学 教務課・二部事務課勉強会(テーマ「学習指導要領とは何か」)	オンライン	職員47名
10月22日	第58回(令和4年度) 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会	オンライン	職員3名
10月22日	大学教務実践研究会セミナー 教務系事務部門リーダー講習会	オンライン	職員1名
10月24日	中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会(第9回)・初等中等教育分科会教員養成部会(第132回)合同会議(傍聴)	オンライン	職員1名
11月5日	全国私立大学教職課程協会 2022年度研究交流集会	オンライン	教員1名 職員1名
11月7日	令和5年度「ちば！教職たまごプロジェクト」大学担当者説明会	対面・千葉県総合教育センター	教員1名 職員1名
11月19日	東京地区教職課程研究連絡協議会情報交換会	オンライン	教員1名 職員1名
11月25日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会(第133回)(傍聴)	オンライン	職員1名
11月26日	令和4年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	オンライン	教員1名 職員1名
12月3日	2022年度第3回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
12月10日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2022年度研究懇話会	オンライン	教員1名 職員1名
12月17日	大学教務実践研究会第10回大会	オンライン	職員1名
12月20日	令和4年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会(文部科学省)	オンライン	職員4名
令和5年1月31日	緊急シンポジウム 教員採用選考試験の早期化・選考の複線化(複数回実施を含む)と教職課程(一般社団法人全国私立大学教職課程協会)	オンライン	教員1名 職員1名
2月11日	大学教務実践研究会 教員免許事務担当者講習会	オンライン	職員1名
2月25日	令和4年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	オンライン	教員1名 職員3名

令和 4 年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	社会科・公民科教育法1・2
経済学部	准教授	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法学部	教授	大西楠テア	法律学 a・b
法学部	教授	坂詰 智美	法律学 a・b
法学部	教授	森田 司郎	教育課程論
経営学部	准教授	福山 文子	公教育制度論
商学部	教授	佐藤 由美	社会科・地歴科教育法1・2
商学部	教授	中野 育男	商業科教育法1・2
文学部	教授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文学部	教授	今井 上	日本文学通史 a
文学部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文学部	教授	片桐 一彦	英語科教育法1・2
文学部	教授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文学部	教授	鬼嶋 淳	日本史 a・b
文学部	教授	佐藤 岳詩	倫理学 a・b
文学部	教授	高岡 貞夫	地理学 b
文学部	教授	高橋 龍夫	国語科教育法 1
文学部	教授	田邊 祐司	英語科教育法3・4
文学部	教授	薦尾 和宏	国語科教育法 2
文学部	教授	貫 成人	哲学 a・b
文学部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文学部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文学部	教授	山口 政幸	日本文学通史 b
文学部	教授	山本 充	地理学 a
文学部	教授	米村みゆき	日本文学概論 b
文学部	准教授	松尾 治	書道科教育法1・2
文学部	助教	小笠原 強	外国史 a・b
文学部	特任教授	肝付 俊朗	教職入門
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育法1・2
人間科学部	教授	大矢根 淳	社会学原論 a
人間科学部	教授	小峰 直史	生徒・進路指導論
人間科学部	教授	馬場 純子	社会学原論 b
国際コミュニケーション学部	教授	山下 直	国語科教育法1・2
経済学部	兼任講師	青木 猛正	生徒・進路指導論
経済学部	兼任講師	長船 孝明	商業科教育法1・2
経済学部	兼任講師	小島 道生	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科・地歴科教育法2
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	社会科・公民科教育法1・2
法学部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法学部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法学部	兼任講師	山口 晶子	教育原論
経営学部	兼任講師	白岩 伸也	教育原論
経営学部	兼任講師	堀内 泰利	情報と職業
商学部	客員教授	齋藤 博志	教職実践演習(中・高)
商学部	兼任講師	五十嵐卓司	社会科・公民科教育法1・2
商学部	兼任講師	生田 清人	地理学 a・b
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商学部	兼任講師	小川 晴久	職業指導 a・b

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
商学部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育法1・2
商学部	兼任講師	進士 勇介	職業指導 a・b
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商学部	兼任講師	松岡 路秀	教職入門
商学部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史 a・b
文学部	兼任講師	新井 智一	地誌学 a・b
文学部	兼任講師	荒畑 隆	地誌学 a・b
文学部	兼任講師	内門 亮子	書道 a
文学部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論 a・b
文学部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
文学部	兼任講師	後藤 康行	日本史 a・b
文学部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学 a・b
文学部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育法1・2
文学部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育法3・4
文学部	兼任講師	長谷川 徹	倫理学 a・b
文学部	兼任講師	福島 大我	外国史 a
文学部	兼任講師	山田 朋子	外国史 a・b
文学部	兼任講師	山本 幸博	書道 a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育法1・2
人間科学部	兼任講師	渡辺 彰規	社会学原論 a・b
国際コミュニケーション学部	兼任講師	初谷 和行	国語科教育法3・4
国際コミュニケーション学部	兼任講師	劉 志偉	日本語学入門 a・b

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	教授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習 2
経営学部	兼任講師	青山比呂乃	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習 2
経営学部	兼任講師	鴫田 拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス概論
文学部	兼任講師	勝亦あき子	読書と豊かな人間性
文学部	兼任講師	畔田 暁子	児童サービス論
文学部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文学部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文学部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文学部	教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

「継続は力なり」というが、専修大学資格課程年報『パッソ ア パッソ』もVol.25をむかえ、これまでの資格課程の四半世紀をしめくくる充実した号となった。教職（学校）、司書（図書館）、学芸員（博物館）と、学びの場や形は違えど、現在、またこれから大学で「教育」を学ぼうとする学生の確かな道標として、有効であることは言うまでもなく、全ての学生にとっても次なるキャリアを考えるきっかけとして、有益な素材にあふれた内容となっている。全体の構成が例年と大きく異なることはないが、本年のそれぞれの課程での学生の取り組みだけでなく、かつて学生だった卒業生のキャリアにも触れられるのが、本誌の特徴でもある。まずはご執筆いただいた方々、編集のためにご尽力いただいた方々に、心より感謝を申し上げる。

まだまだいわゆるコロナ禍の中で、オンラインで実施された教職公開講座や、代替措置の形で学びが進められた介護等の体験など、大学も以前の状態に戻ったわけではない。いっぽうで、設立70周年をむかえた専修大学教育学会大会や第2回学芸員課程セミナーなど、久しぶりに対面で開催できた行事もある。感染症対策に試行錯誤し気を配りながら、教育を担おうとする様々な方々の真摯な取り組みとその姿勢を、今号のページ一枚一枚からつぶさに感じ取ることができる。次なるステージに向かって、着実に新しい教育の形が進化し続けているのである。

今回、はじめて『パッソ ア パッソ』を手にとったあなたには、ぜひ興味のある所からでも良いので熟読し、専修大学の教職員、学生、卒業生、そして実習先も含め、資格課程の活動を支えていただいているすべての方々の熱量を、しっかりと受けとめてほしい。大学のホームページでも閲覧できる過去の号も含め、『パッソ ア パッソ』があなた自身の次の一歩を作る、そして次の四半世紀を作る糧として、広く活用されることを強く望んでいる。

編集委員長

高島 裕之

編集委員

佐藤 由美

松尾 治

小峰 直史

野口 武悟

令和4年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 令和5年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学

専修大学